一般社団法人　尾道青年会議所

２０１８年度　第１２回　理事会

日　時：２０１８年１２月　６日（木）１９：００ ～

場　所：尾道国際ホテル

第１２回　理事会

資　料　一　覧

［議事次第］

１．第１２回　理事会

［理事長報告］

［事務局連絡］

［資　　料］

１．青年経済人の育成事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件	１―１～　６
２．会員資質向上を目的とした事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件	２―１～　４
３．地域教育推進事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件	３―１～　８
４．しまなみ３ＪＣ事業の企画・運営　事業報告（案）決算（案）に関する件	４―１～　７
５．活動記録の整理・保存及び広報活動の実践・検証　事業報告(案)に関する件	５―１～　９
６．地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件	６―１～１９
７．新入会員研修の調査・研究・実践 事業計画（案）予算（案）に関する件	７―１～１５
８．卒業例会行事　事業計画（案）予算（案）に関する件	８―１～１６
９．一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　役員承認に関する件	９―１～　８
１０．一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　委員会事業計画（案）予算（案）に関する件	１０―１～　７
１１．一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　一般収支予算（案）に関する件	１１―１～　６
１２．一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　特別会員への入会（案）に関する件	１２―１～　２
１３．例会・総会の設営及び運営　事業計画（案）に関する件	１３―１～　３
１４．新年宴会　事業計画（案）に関する件	１４―１～　４

一般社団法人　尾道青年会議所
２０１８年度　第１２回　理事会

日時：２０１８年１２月　６日（木）
１９：００～
場所：尾道国際ホテル

次　　第

１．開　　会
２．点　　鐘
３．ＪＣＩクリード唱和
４．ＪＣＩミッション並びにＪＣＩビジョン唱和
５．ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和
６．出席者の確認
７．配付資料の確認
８．議事録署名人並びに議事録作成者の指名
９．議題の確認
１０．理事長挨拶
１１．直前理事長挨拶
１２．理事長報告
１３．委員会報告
１４．審議事項

第　１号議案　青年経済人の育成事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

第　２号議案　会員資質向上を目的とした事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

第　３号議案　地域教育推進事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

第　４号議案　しまなみ３ＪＣ事業の企画・運営　事業報告（案）決算（案）に関する件

第　５号議案　活動記録の整理・保存及び広報活動の実践・検証　事業報告(案)に関する件

第　６号議案　地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

第　７号議案　新入会員研修の調査・研究・実践 事業計画（案）予算（案）に関する件

第　８号議案　卒業例会行事　事業計画（案）予算（案）に関する件

第　９号議案　一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　役員承認に関する件

第１０号議案　一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　委員会事業計画（案）予算（案）に関する件

第１１号議案　一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　一般収支予算（案）に関する件

第１２号議案　一般社団法人尾道青年会議所　２０１９年度　特別会員への入会（案）に関する件

第１３号議案　例会・総会の設営及び運営　事業計画（案）に関する件

第１４号議案　新年宴会　事業計画（案）に関する件

第１５号議案　その他

１５．協議事項

第　１号議案　その他

１６．報告依頼事項

１７．連絡事項

１８．監事講評

１９．次回開催日の確認

２０．点　　鐘

２１．閉　　会

理事長報告

１１月　９日（金）	第１１回理事会	於：尾道国際ホテル
１１月１０日（土）	三次６５周年記念式典	於：三次市内
１１月１４日（水）	防災授業	於：高須小学校
１１月１６日（金）	しまなみ３ＪＣ新旧引継	於：今治市内
１１月１７日（土）	追い出し野球大会	於：高須小学校
１１月１８日（日）	尾道市教育フォーラム	於：しまなみ交流館
１１月１８日（日）	ローズカップ	於：福山平成大学
１１月１９日（月）	１１月例会	於：尾道国際ホテル
１１月２３日（金）	追い出しゴルフ	於：うずしおカントリー倶楽部
１１月２４日（土）	会員会議所会議	於：広島市内
１１月２７日（火）	第１１回正副理事長会議	於：事務局
１２月　１日（土）	中国地区会員会議所会議	於：福山市内
１２月　３日（月）	シニアクラブ総会	於：西山別館
１２月　６日（木）	第１２回理事会	於：尾道国際ホテル

事務局連絡

１２月　８日（土）	新入会員研修	於：尾道商工会議所
１２月　９日（日）	クリスマス会	於：グリーンヒルホテル尾道
１２月１７日（月）	１２月卒業例会	於：尾道国際ホテル
１２月２７日（木）	第１２回正副事務局会議	於：事務局

上程締め切り　１２月２０日（木）１７時まで

委 員 会 報 告

期間　2018年11月5日～2018年12月3日

委 員 会 名	日時	場　所	議　　題
会員資質向上委員会	11月5日	ベイタウン尾道	会員資質向上を目的とした事業の調査・研究・実践について
地域教育推進委員会	11月5日	ベイタウン尾道	地域教育推進事業の調査・研究・実践について
社会開発委員会	11月5日	ベイタウン尾道	地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践について
未来ビジョン委員会	11月5日	ベイタウン尾道	11月例会について
	11月8日	大漁物産	11月例会について
	11月13日	大漁物産	11月例会について
	11月14日	大漁物産	11月例会について
	11月16日	大漁物産	11月例会について
	11月18日	大漁物産	11月例会について
拡大研修委員会	11月5日	ベイタウン尾道	新入会員研修について
	11月13日	事務局	会員拡大の調査・研究・実践について
総務広報委員会	11月5日	ベイタウン尾道	活動記録の整理・保存及び広報活動の実践・検証について／例会・総会の設営及び運営について
	11月12日	事務局	卒業例会について
	11月20日	事務局	卒業例会について
	11月28日	事務局	卒業例会について
ブロックゴルフ大会実行特別委員会	11月5日	ベイタウン尾道	しまなみ3JC事業の企画・運営について／クリスマス会について
	11月14日	高知市	クリスマス会

一般社団法人　尾道青年会議所　事業報告（案）決算（案）

審議事項

委員会名：未来ビジョン委員会
委員長名：吉田　雄太

（1）議案名

青年経済人の育成事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

（2）事業名

青年経済人育成事業　テーマ　「未来への挑戦」

（3）事業実施に至る背景

昨今の市場は目まぐるしく変化を遂げています。その変化は自社の都合を置いていき顧客、ライバルの勝手により複雑化しているなか、企業は利益を上げることが大前提としたそれ以外のことで優位性を持った企業が求められています。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）人との縁を大切にして成長している企業の事例を知る事で自社を今一度検証していただき、より関わる人を大切にする為の手法を持ち帰っていただく事で、尾道に優良企業が増える一助となることを目的とします。

ｂ．（対内）対外と同じ

（5）実施日時　　２０１８年１０月２９日（月）１８：００開場　１８：３０開演　２０：３０終了

（6）場　　所　　ベイタウン尾道組合会館

（7）参加人員　　内部４５名　　外部７９名　　計１２４名

（8）外部協力者　（株）ナベショー　代表取締役会長兼社長　渡邊　泰博氏

（9）事業の目的は達したか？

参加された方より「自社を振り返る良い機会になった」「一緒に参加した幹部と社員満足度の向上について話した」などの声を頂きました。また、アンケート結果からも今後の経営に役立つと回答された方が多数であったことから、本事業の目的は達したと考えます。

(10) 実施上の問題点

会場が広いため真ん中辺りにスクリーンをもう１つ用意し公演をビデオカメラで映しましたが、綺麗に写っていなかったので、机をなくして椅子だけにして直接見えるようにするべきでした。また当日もって来られた資料があった為、写し出すだけの映像になってしまい、見えないという声がありました。

(11) 次年度への引継事項

ベイタウンで講演をする場合は会場が縦長の為、椅子だけのレイアウトにする事も検討した方が

良いです。また、スクリーンを中央にも設置するなどの工夫が必要です。椅子のみにした場合は、メモやアンケートをとる際に、厚手の紙などを用意しておくべきです。
講演内容に関しては一般社員にも興味が持てる内容にするべきでした。

(12) 委員長所見

今回の講演を聞いて自社に置き換えると色々と見えていない問題点が浮き彫りになり今後の会社経営の一助になりました。また講演の中にもありましたが、人材育成の部分では青年会議所の委員会運営にも同じ事が言えると感じました。上も下も関係なく全員が、活動を楽しみながらも責任を持って、会をより良くしていくという意識をもっと持つべきではないでしょうか。

(13) 添付資料

事業収支計算書（案）
収支計算明細書（案）
アンケート集計（参考資料）

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

事業収支計算書（案）

事業名　青年経済人の育成事業の調査・研究・実践　テーマ「未来への挑戦」

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差　異	備　考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入		200,000	200,000	0	
	事業費繰入収入	事業予備費繰入収入				0	
	登録料収入					0	
	販売収入					0	
	広告料収入					0	
	負担金収入					0	
	雑収入					0	
補助金等収入	国庫補助金収入					0	
	地方公共団体補助金収入					0	
	民間補助金収入					0	
	国庫助成金収入					0	
	地方公共団体助成金収入					0	
	民間助成金収入					0	
寄付金収入	寄付金収入					0	
	募金収入					0	
収入合計				200,000	200,000	0	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差　異	備　考
事業費支出	事業費支出	会場設営費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出	36,034	50,976	-14,942	協同組合ベイタウン尾道（会場費、演台、司会代、マイク、プロジェクター、スクリーン、空調）
			設営費支出	10,800	10,800	0	（有）メディアジャンクション（看板代）
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
		小計		46,834	61,776	-14,942	
		企画演出費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			企画費支出			0	
			演出費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
		小計		0	0	0	
		本部団関係費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			通信費支出			0	
			運送費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			渉外費支出			0	
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出	2,000	2,000	0	（有）やすもと（講師弁当代）
			旅費交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
			保険料支出			0	
			諸謝金支出			0	
			会合費支出			0	
			記念品代支出	10,800	10,800	0	川原食品（株）
		小計		12,800	12,800	0	
		広報費支出	運営費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			通信費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出	5,292	5,292	0	紙誠（株）
			PR費支出			0	
		小計		5,292	5,292	0	
		資料作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		報告書作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出	912	912	0	事務局（アンケート用紙152人×6円）
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		912	912	0	
		懇親会費支出	人件費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			飲食費支出			0	
			アトラクション費支出			0	
		小計		0	0	0	
		渉外費支出	役員渉外費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出			0	
			交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出		0	0	0	
		保険料支出		0	0	0	
		通信費支出		0	0	0	
		販売物品仕入支出		0	0	0	
		雑費支出		0	0	0	
	事業予備費支出			134,162			
余剰金					119,220		
支出合計				200,000	200,000		

●余剰金　¥119,220　については本理事会承認後、事業予備費に繰入れる。

収支計算明細書(案)

事業名　青年経済人の育成事業の調査・研究・実践　テーマ「未来への挑戦」

＜収入明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			200,000	200,000	0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			合　計	200,000	200,000	0	

＜支出明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費支出	会場設営費支出	会場費支出	会場費、演台、司会台、マイク、プロジェクター、スクリーン、空調	36,034	50,976	−14,942	協同組合ベイタウン尾道
		設営費支出	看板代	10,800	10,800	0	(有)メディアジャンクション
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	46,834	61,776	−14,942	
	講師関係費支出	記念品代支出	記念品	10,800	10,800	0	川原食品(株)
		食事代支出	食事代	2,000	2,000	0	(有)やすもと
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	12,800	12,800	0	
	広報費支出	作成費支出	A4チラシ500枚	5,292	5,292	0	紙誠(株)
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	5,292	5,292	0	
	報告書作成費支出	資料費支出	アンケート(152人×6円)	912	912	0	事務局
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	912	912	0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	0	0	0	
	参加記念品代支出					0	
	保険料支出					0	
	通信費支出					0	
	販売物品仕入支出					0	
	雑費支出					0	
事業予備費支出				134,162			
余　剰　金					119,220		
支　出　合　計				200,000	200,000		

青年経済人育成事業
「未来への挑戦」
アンケート結果

男性	１１９人	女性５人	計１２４人
２０歳以下	２人	０人	
２０～３０歳	８人	０人	
３０～４０歳	７０人	３人	
４０～５０歳	２５人	２人	
５０～６０歳	９人	０人	
６０歳以上	５人	０人	
経営者	８９人	３人	
一般社員	２５人	２人	
学生	５人	０人	

社会人用アンケート（経営者９２人一般社員２７人）

○今後の会社経営に役立ちますか

【経営者】

とても役立つ７７人　ある程度役立つ１０人　少しは役立つ４人　全く役立たない１人

【一般社員】

とても役立つ８人　ある程度役立つ９人　少しは役立つ８人　全く役立たない２人

○事業意欲はわきましたか

【経営者】

わいた６７人　普通１７人　あまりわかない６人　全くわかなかった２人

【一般社員】

わいた７人　普通１０人　あまりわかない９人　全くわかなかった１人

○人材育成について役立ちますか

【経営者】

とても役立つ７３人　ある程度役立つ１４人　少しは役立つ４人　全く役立たない１人

【一般社員】

とても役立つ１４人　ある程度役立つ６人　少しは役立つ５人　全く役立たない２人

○自社の経営課題の解決となるヒントを得られましたか
【経営者】
得られた７５人　少しは得られた１６人　全く得られなかった１人
【一般社員】
得られた９人　少しは得られた１６人　全く得られなかった２人

学生用アンケート（５人）

○目指す会社像の参考になりましたか
とてもなった３人　ある程度なった１人　少しなった１人　全く参考にならなかった０人

○魅力を感じるリーダー像をイメージ出来ましたか
できた２人　普通２人　あまりできなかった１人　全くできなかった０人

○将来経営者を志す気持ちはわきましたか
ますます経営者になりたいと思った　３人
経営者になろうと思っており、その気持ちに変化はおきなかった　２人
経営者になることに不安になった　０人

○意見
自社の社員にこのような貴重な話を聞かせることが出来て良かった
業界の常識は非常識というのは皆の会社や業界に通じる
頭を使う人が少ないというのは共感できる
自分で決める事が出来る仕事を与える
定期的にこのような講演をやってほしい
もう少し的を絞った話をしてほしかった

○本日の事業を何で知りましたか（複数選択可）
チラシ５　ポスター１　ホームページ２　Facebook5
友人・知人から２１　メンバーから５７　その他６　　計９７

○普段、主に尾道のイベント情報を調べるには何を利用されますか（複数選択可）
ＳＮＳ３２　チラシ２４　ポスター１９　インターネット２９
ＴＶ６　ラジオ４　新聞７　雑誌５　口コミ２１　　計１４７

一般社団法人　尾道青年会議所　事業報告（案）決算（案）

審議事項

委員会名：会員資質向上委員会
委員長名：中島　裕一朗

（1）議案名

会員資質向上を目的とした事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

（2）事業名

復興チャリティーイベント　～　circle of smile　～

（3）事業実施に至る背景

平成 30 年 7 月の豪雨災害によって、私たちの住む尾道も多くの災害に見舞われました。
尾道の街の元気を取り戻し、そして被害に合われた方々が少しでも早く平穏で安心な生活が取り戻せるように尾道青年会議所のメンバーが一丸となり、活動をする必要があります。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）　尾道のまちが少しでも早く元気を取り戻し、笑顔の輪を広げていくことを目的とします。

ｂ．（対内）　復興チャリティーイベントにメンバー一丸となって参加し、尾道の復興の為に活動することで、青年会議所会員として必要な三信条（修練・奉仕・友情）を実現させることを目的とします。

（5）実施日時　　２０１８年１１月　３日（土）

（6）場　　所　　尾道駅前緑地帯

（7）参加人員　　内部　３６名　　外部　約４，０００名　　計　約４，０３６名
（内部内訳：正会員３６名、仮入会員０名）

（8）外部協力者

（9）事業の目的は達したか？

復興チャリティーイベント当日は晴天にも恵まれ、多くの方にご来場頂けた事で、本イベントのテーマでもある笑顔の輪が大きく広がり、多くの義援金も集めることができました。
また、メンバーはベッチャー祭りへの参画、そして本イベントの設営・運営にと人数に限りがある中での開催となりましたが、それぞれのポジションで皆が役割を全うして頂けた事で、ベッチャー祭り・本イベント共に大盛況の内に終える事ができました。よって目的は達成できたと考えます。

(10) 実施上の問題点

青年会議所メンバーの多大なるご協力を頂き、Tシャツ及びタオルは完売する事が出来ましたが、

ステッカーが大幅に売れ残る結果となりました。価格帯の安いグッズを用意し、多くの方に義援金を頂ける様にと考えステッカーを選定しましたが、結果として価格より日常で使いやすいグッズの方が需要があり、この選定方法は誤りとなってしまいました。
また、当日は飲食ブースの方は売れ行きが良く、各ブースが１３時にはほぼ売り切れてしまい、来場者の促進に繋がらないという状況になってしまいました。来場者数を考え提供できるよう準備を各店舗には促しておくべきでした。

(11) 次年度への引継事項

今回の復興チャリティーイベントは、復興に向けより多くの義援金を集める為に、尾道の代表的な祭りの一つであるベッチャー祭りの同日に開催させて頂きました。結果は我々が想定していた以上の来場者数となり、今後も成果は十分に見込めるものであると思います。しかしながら、ベッチャー祭りへの参画も青年会議所の役割である為、各メンバーの役割や負担は非常に大きなものとなります。次年度以降でも検討される場合は、その点を十分に考慮して開催して頂ければと思います。

(12) 委員長所見

７月の西日本豪雨災害で被災した尾道のまちが少しでも早く元気を取り戻し、笑顔の輪を広げていくことを考え、会員資質向上委員会、地域教育推進委員会、ブロックゴルフ大会実行特別委員会の３つの委員会が合同で行う新たな試みでした。
復興チャリティーイベントを開催するにあたって多くの不安もありましたが、３委員会がお互いにブースを担当し協力することで、一つの委員会だけでは出来ない規模のイベントになり、来場者の笑顔の輪が広がりました。
しかしながら、まだまだ復興に向けて時間はかかります。今後も防災の啓発活動も含め尾道青年会議所メンバー一丸となってまちに対して率先垂範で行動していかなければなりません。
最後になりますが、今回の復興チャリティーイベントの為に協力いただいメンバー及び関係各所の皆様には厚く御礼申し上げます。

(13) 添付資料

事業収支計算書（案）
収支計算明細書（案）

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

事業収支計算書(案)

事業名　復興チャリティーイベント ～ circle of smile ～

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差異	備考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入		300,000	300,000	0	
	事業費繰入収入	事業予備費繰入収入				0	
	登録料収入					0	
	販売収入			1,715,000	1,590,156	124,844	
	広告料収入					0	
	負担金収入					0	
	雑収入					0	
補助金等収入	国庫補助金収入					0	
	地方公共団体補助金収入					0	
	民間補助金収入					0	
	国庫助成金収入					0	
	地方公共団体助成金収入					0	
	民間助成金収入					0	
寄付金収入	寄付金収入					0	
	募金収入					0	
収入合計				2,015,000	1,890,156	124,844	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差異	備考
事業費支出	事業費支出	会場設営費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出	18,000	18,000	0	
			設営費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
		小計		18,000	18,000	0	
		企画演出費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			企画費支出	1,728,200	1,640,185	88,015	
			演出費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
		小計		1,728,200	1,640,185	88,015	
		本部団関係費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			通信費支出			0	
			運送費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			渉外費支出			0	
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
			保険料支出			0	
			諸謝金支出			0	
			会合費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		広報費支出	運営費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			通信費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
			PR費支出			0	
		小計		0	0	0	
		資料作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		報告書作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出	42,984	42,984	0	
		小計		42,984	42,984	0	
		懇親会費支出	人件費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			飲食費支出			0	
			アトラクション費支出			0	
		小計		0	0	0	
		渉外費支出	役員渉外費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出			0	
			交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出		0	0	0	
		保険料支出		0	0	0	
		通信費支出		0	0	0	
		販売物品仕入支出		0	0	0	
		雑費支出		0	0	0	
	事業予備費支出			225,816			
余剰金					188,987		
支出合計				2,015,000	1,890,156		

●余剰金　¥188,987　については本理事会承認後、事業予備費に繰入れる。

収支計算明細書(案)

事業名　復興チャリティーイベント　～ circle of smile　～

＜収入明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			300,000	300,000	0	
販売収入			カープコラボTシャツ	1,250,000	1,250,000	0	
			デザインタオル	200,000	200,000	0	
			デザインステッカー	80,000	12,800	67,200	
			店舗出店料	25,000	25,000	0	
			飲料ブース	160,000	56,600	103,400	
			タル募金		45,756	-45,756	
			合　計	2,015,000	1,890,156	124,844	

＜支出明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費支出	会場設営費支出	会場費支出	電気配線工事	10,000	10,000	0	丸一電設工業有限会社
			水道設備	8,000	8,000	0	R&R
		設営費支出	テント　15個	0	0	0	社会福祉協議会
			机　　40個	0	0	0	尾道市観光課
			イス　　200個	0	0	0	尾道市観光協会
						0	
			小　計	18,000	18,000	0	
	企画演出費支出	企画費支出	カープコラボTシャツ　500着	750,000	750,000	0	尾道市観光協会
			デザインタオル　　200枚	118,000	105,000	13,000	株式会社　三光産業
			デザインステッカー　200セット	47,520	47,520	0	紙誠(株)
			チャリティーグッズデザイン料	43,200	43,200	0	カメレオンワークス
			飲料代	100,000	56,600	43,400	原田酒店
			備品一式	30,000	6,829	23,171	ダイソー、パッケージプラザ等
			チャリティー募金	639,480	631,036	8,444	タル募金も含む
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	1,728,200	1,640,185	88,015	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	0	0	0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	0	0	0	
	広告費支出	作成費支出	宣伝ポスター　100部	11,880	11,880	0	紙誠(株)
			小学校配布チラシ　8000部	31,104	31,104	0	紙誠(株)
						0	
						0	
						0	
			小　計	42,984	42,984	0	
	参加記念品代支出					0	
	保険料支出					0	
	通信費支出					0	
	販売物品仕入支出					0	
	雑費支出					0	
事業予備費支出				225,816			
余　剰　金					188,987		
支　出　合　計				2,015,000	1,890,156		

一般社団法人　尾道青年会議所　事業報告（案）決算（案）

審議事項

委員会名：地域教育推進委員会
委員長名：新宅正章

（1）議案名

地域教育推進事業の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

（2）事業名

復興チャリティーイベント　～ circle of smile ～

（3）事業実施に至る背景

平成３０年７月豪雨により、尾道でも過去にない甚大な被害が発生しました。近年、毎年のように異常気象が続き全国各地で大災害が発生しており、未来を担う子供たち中心に市民の皆さんが楽しみながら防災について学べる場を提供する必要があります。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）

楽しみながら防災について学ぶことを目的とします。

ｂ．（対内）

防災について学ぶと共に義援金を集めることを目的とします。

（5）実施日時

２０１８年１１月　３日（土）１０時００分 ～ １６時００分

（6）場　所

駅前緑地帯

（7）参加人数

内部３６名　　外部４，０００名　　計４，０３６名

（8）外部協力者

尾道市防災士ネットワーク５名、尾道市立大学シグマソサエティ同好会４名

（9）事業の目的は達したか

イベント開演から終演まで列が途切れることなく、子供達を中心に多数の方が楽しみながら地震体験機やＶＲ消火体験等に参加してくださいました。

また、義援金の額についても目標金額に近い金額を集めることが出来たので目標は十分に達成したと考えます。

(10) 実施上の問題点

当日はベッチャー祭りも開催され、メンバーも２分されたこともあり、人数的に厳しい状況となり交代要員もいないため、本事業の運営に携わったスタッフは、休憩もほとんど取ることができませんでした。日差しもきつい中、屋外で立ちっぱなしの６時間となり申し訳なかったです。

また、企画する時間も短い上、３委員会合同でのイベントとなったため、委員会でじっくりと話をする時間がなく、３委員会の理事メンバー中心で内容等の調整を行うこととなりました。

(11) 次年度への引継事項

この度のように、複数の委員会が同じ場所でそれぞれの事業を実施することは、準備の分担や広報費の削減、集客力の増加などにおいて非常に効果的かつ効率的な手法の一つだと思いました。

今後、会員減が懸念される中、事業の日時や方向性が合えば合同での事業実施も選択肢の一つだと思いました。

(12) 委員長所見

多くの方に参加していただき、また、たくさんの子供たちの笑顔を見ることができ、非常に嬉しく思っております。また、運営側のスタッフも食事すらまともに取れない中、文句一つ言わずに本当に頑張ってくださいました。その姿勢が本イベントの趣旨とも合致し、行列を誘ったのではないか、と感じております。感謝しかありません。本当にありがとうございました。

(13) 添付資料

事業収支計算書（案）
収支計算明細書（案）
事業内容（参考資料）

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

事業収支計算書（案）

事業名　地域教育推進事業　復興チャリティーイベント ～circle of smile ～

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差　異	備　考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入		250,000	250,000	0	
	事業費繰入収入	事業予備費繰入収入		300,000	300,000	0	
	登録料収入					0	
	販売収入			140,000	131,112	8,888	
	広告料収入					0	
	負担金収入					0	
	雑収入					0	
補助金等収入	国庫補助金収入					0	
	地方公共団体補助金収入					0	
	民間補助金収入					0	
	国庫助成金収入					0	
	地方公共団体助成金収入					0	
	民間助成金収入					0	
寄付金収入	寄付金収入					0	
	募金収入					0	
収入合計				690,000	681,112	8,888	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差　異	備　考
事業費支出	事業費支出	会場設営費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
		小計		0	0	0	
		企画演出費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			企画費支出	671,996	513,312	158,684	
			演出費支出	4,000	4,147	-147	
			旅費交通費支出			0	
		小計		675,996	517,459	158,537	
		本部団関係費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			通信費支出			0	
			運送費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			渉外費支出			0	
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
			保険料支出			0	
			諸謝金支出			0	
			会合費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		広報費支出	運営費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			通信費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
			ＰＲ費支出			0	
		小計		0	0	0	
		資料作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		報告書作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		懇親会費支出	人件費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			飲食費支出			0	
			アトラクション費支出			0	
		小計		0	0	0	
		渉外費支出	役員渉外費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出			0	
			交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出				0	
		保険料支出			0	0	
		通信費支出		1,728	864	864	
		販売物品仕入支出				0	
		雑費支出				0	
	事業予備費支出			12,276			
余剰金					162,789		
支出合計				690,000	681,112		

●余剰金　　¥162,789　　については本理事会承認後、事業予備費に繰入れる。

収支計算明細書(案)

事業名 地域教育推進事業　復興チャリティーイベント ～circle of smile ～

＜収入明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			250,000	250,000	0	
事業費繰入収入	事業予備費繰入収入			300,000	300,000	0	
	販売収入		ふわふわドーム@200	60,000	81,092	-21,092	
			VR消火体験@100	30,000	20,550	9,450	
			地震体験機@100	50,000	29,470	20,530	
			合　　計	690,000	681,112	8,888	

＜支出明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	決算額	差異	備考
	企画演出費支出	企画費	ふわふわドーム設置料	97,200	97,200	0	R&R尾道
			VR消火体験設置・運営	149,796	0	149,796	NECネッツエスアイ(株)
			地震体験機設置・運営	270,000	270,000	0	株式会社コスメイト
			バルーンアート	15,000	15,000	0	杉原潔(源泉徴収込)
		演出費	ポップ及び募金箱作成	4,000	4,147	-147	パッケージプラザ、ダイソー
		企画費	チャリティー募金	140,000	131,112	8,888	(一社)尾道青年会議所
			小　　計	675,996	517,459	158,537	
事業費支出			小　　計	0	0	0	
			小　　計	0	0	0	
			小　　計	0	0	0	
			小　　計	0	0	0	
	参加記念品代支出					0	
	保　険　料　支　出				0	0	
	通　信　費　支　出		振込手数料	1,728	864	864	株式会社コスメイト
	販売物品仕入支出					0	
	雑　　費　　支　　出					0	
事業予備費支出				12,276			
余　　剰　　金					162,789		
支　　出　　合　　計				690,000	681,112		

地域教育推進事業　内容（参考資料）

本事業の目的は、未来を担う子供たちを中心に防災について楽しんで学ぶことです。そのために、体験型の防災教育を中心に開催しました。

当日は、開演から終演までどのブースも行列が途切れることなく大盛況でした。

１　地震体験機（１回　１００円）

参加人数：約６００人　　募金合計２９，４７０円

東日本大震災、阪神淡路大震災など過去の大地震の実際の揺れ１０パターン程度を再現できました。１回が１分程度と短ったため、予定は１人１００円でしたが、１回１００円とし運用しました。そのため、人数は予定以上の方が体験されましたが、義援金は予定より少なくなりました。

２　VR 消火体験シミュレータ（１回　１００円）

参加人数：約２００人　　募金合計：２０，５５０円

液晶テレビを２台と子供用防火衣を準備したことで、臨場感ある消化体験ができました。とても人気のブースだったのですが、１回に時間がかかることと、機器の関係で１時間３０分ごとに３０分冷ます時間が必要だったことから、予定の人数より少なくなりました。

なお、NEC さんが本事業に感銘を受け、当初値切って約１５万円だった運営費をご好意で無償としてくださいました。

３　災害パネル展示（無料）

参加人数不明

樽募金の前に設置し４枚の展示パネルに７月豪雨と広島土砂災害の写真計２０枚を貼り付けました。当日は、風で点灯する危険があるので重りを設置し安全確保しました。

樽募金の前に設置することで、一定の募金効果はあったと考えます。

４　防災啓発コーナー（無料）

参加人数不明（非常食４２０食配布）

防災士の方５名が防災について話をしながら防災啓発を行ってくださいました。

当日は、準備していた乾パン・ビスケットといった非常食２４０食が２時間程度でなくなってしまい、急遽、市役所に追加で１８０食をもらいに行きました。その他にダンボールベッド体験や非常持ち出し品の展示などを行い、大人中心に興味深く防災士の方に質問されていました。

５　ふわふわドーム（１回（５分）　２００円）

参加者：約４００人　　募金合計：８１，０９２円

尾道大学シグマ４名の方に手伝っていただき、何とか回せました。予想以上の人気で常に行列ができていました。少しでも円滑に回せるよう靴の移動や待機場所など様々な工夫をしてくれました。ふわふわドームは遠くからも目立つため、かなりの集客効果もあったと考えます。

６　バルーンアート（無料）

参加者：約８００人

予想以上の人気で行列が半端ではなかったです。杉原氏だけでは、対応が困難な状況となり、急遽メンバー３名が YOUTUBE などで勉強し、手伝いに入りました。

せっかくなので無料の予定でしたが募金箱を設置しました。地震体験機の募金箱と一緒になったので金額は不明ですが、５千円程度は集まったと想定します。

なお、杉原氏は一切の休憩もなく６時間ぶっ続けとなり、申し訳なかったです。

一般社団法人　尾道青年会議所　事業報告（案）決算（案）

審議　事項

委員会名：ブロックゴルフ大会実行特別委員会
副実行委員長名：歌　一行

（1）議案名

しまなみ３ＪＣ事業の企画・運営　事業報告（案）決算（案）に関する件

（2）事業名

復興チャリティーイベント　　～ circle of smile ～

（3）事業実施に至る背景

平成３０年７月豪雨災害によって、私たちの住む町尾道にも様々な被害が及んでいます。土砂災害等で被災をされ、住居などの生活環境が損なわれてしまった物質的なダメージ、観光客の減少という経済的なダメージ、またこれらの災害の影響でまち全体の活気が失われているという問題があると考えます。

（4）事業目的（趣旨）

（対外）（対内）

尾道の町が災害に負けない町、今まで以上に活気ある町となるよう、今こそ尾道青年会議所が、一丸となって町に貢献することを目的といたします。

（5）実施日時　　２０１８年１１月　３日（土）　１０：００～１６：００

（6）場　　所　　駅前緑地帯

（7）参加人員　　内部　３６名　　外部　４,０００名　　計　４,０３６名

（内部内訳：正会員　３６名）

（8）外部協力者　西日本旅客鉄道株式会社、尾道ダイハツ販売株式会社、株式会社ケンスイ
公益社団法人　今治青年会議所、一般社団法人　因島青年会議所

（9）事業の目的は達したか？

市内小学校へのチラシ配布やポスターを掲示したこともあり、１０時の開演を待たずして多くの子供や家族がご来場いただき、様々なブースに長蛇の列が出来るほどの盛況でした。
また義援金についても復興チャリティー事業の趣旨を理解いただき、快く募金していただくことが出来、目的は十分達成することが出来たと考えます。

(10) 実施上の問題点

当日はベッチャー祭もあり少ないメンバーで運営をしなければならず、昼食や休憩がほとんど取れませんでした。参加いただいたスタッフには大変申し訳なく思います。

また魚すくいに関して当初は時間毎に定員を決め実施する計画でしたが、想像以上のお客様が朝一番から詰め掛け、また生きた魚が夕方までもつか懸念があったため、随時受付に変更しました。そのおかげもありさほど待つこともなく、また夕方まで魚すくいを楽しんでいただけました。

(11) 次年度への引継事項

今回の復興チャリティーイベントでは３つの委員会が合同で事業を実施したことで、事業内容の充実、広報費の削減、集客力の向上など大きな成果を上げることが出来たと考えます。
次年度以降、このような機会があるとは限りませんが、共通の目的の下、複数の委員会で事業を実施することは町への貢献を最大化する選択肢の一つになり得ると考えます。

(12) 委員長所見

短い期間での準備ではありましたが尾道青年会議所が一致団結して復興チャリティーイベントに取り組んだ結果、多くの子供や家族がご参加いただき、笑顔溢れるイベントになったことを大変嬉しく思っております。また、しまなみ３ＪＣ事業として今治ＪＣ・因島ＪＣにも出店いただき、同じ目的の下、復興チャリティー事業を行えたことはより一層の交流を深めることが出来たと考えます。
当日手伝っていただいたスタッフ、ご協力いただいた各団体の皆様には心より感謝申し上げます。

(13) 添付資料

事業収支計算書（案）
収支計算明細書（案）
復興チャリティーイベント内容報告（参考資料）

第１２回理事会　　２０１８年１２月　　６日

事業収支計算書（案）

事業名　　復興チャリティーイベント ～ circle of smile ～

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差 異	備 考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入		250,000	250,000	0	
	事業費繰入収入	事業予備費繰入収入		250,000	250,000	0	
	登録料収入					0	
	販売収入			170,000	166,000	4,000	魚すくい 292名×500円、もの作り 200名×100円
	広告料収入					0	
	負担金収入					0	
	雑収入					0	
補助金等収入	国庫補助金収入					0	
	地方公共団体補助金収入					0	
	民間補助金収入					0	
	国庫助成金収入					0	
	地方公共団体助成金収入					0	
	民間助成金収入					0	
寄付金収入	寄付金収入					0	
	募金収入					0	
収入合計				670,000	666,000	4,000	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差 異	備 考
事業費支出	事業費支出	会場設営費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出	120,000	117,215	2,785	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
		小計		120,000	117,215	2,785	
		企画演出費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			企画費支出	170,000	166,000	4,000	
			演出費支出	329,970	223,818	106,152	
			旅費交通費支出			0	
		小計		499,970	389,818	110,152	
		本部団関係費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			通信費支出			0	
			運送費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			渉外費支出			0	
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
			保険料支出			0	
			諸謝金支出			0	
			会合費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		広報費支出	運営費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			通信費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
			PR費支出			0	
		小計		0	0	0	
		資料作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		報告書作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		懇親会費支出	人件費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			飲食費支出			0	
			アトラクション費支出			0	
		小計		0	0	0	
		渉外費支出	役員渉外費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出			0	
			交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出		0	0	0	
		保険料支出		0	0	0	
		通信費支出		540	540	0	
		販売物品仕入支出		0	0	0	
		雑費支出		0	0	0	
	事業予備費支出			49,490			
余剰金					158,427		
支出合計				670,000	666,000		

●余剰金　　¥158,427　　については本理事会承認後、事業予備費に繰入れる。

収支計算明細書(案)

事業名 復興チャリティーイベント ～ circle of smile ～

＜収入明細書＞

中 科 目	小 科 目	細目	摘 要	予算額	決算額	差異	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			250,000	250,000	0	
	事業予備費繰入収入			250,000	250,000	0	
						0	
販売収入				170,000	166,000	4,000	魚すくい 292名×500円、もの作り 200名×100円
						0	
						0	
			合 計	670,000	666,000	4,000	

＜支出明細書＞

中 科 目	小 科 目	細目	摘 要	予算額	決算額	差異	備考
事業費支出	会場設営費支出	設営費支出	プール代	100,000	100,000	0	岡本設備(有)
		設営費支出	魚すくい網、ビニール袋、バケツ他	20,000	17,215	2,785	ダイソー他
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小 計	120,000	117,215	2,785	
	企画演出費支出	企画費支出	チャリティー募金	170,000	166,000	4,000	(一社)尾道青年会議所
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小 計	170,000	166,000	4,000	
	企画演出費支出	演出費支出	魚代	324,000	217,200	106,800	ケンスイ
		演出費支出	保冷剤	5,970	6,618	-648	フジックス
						0	
						0	
						0	
						0	
			小 計	329,970	223,818	106,152	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小 計	0	0	0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小 計	0	0	0	
	参加記念品代支出					0	
	保 険 料 支 出					0	
	通 信 費 支 出			540	540	0	振込手数料
	販売物品仕入支出					0	
	雑 費 支 出					0	
事業予備費支出				49,490			
余 剰 金					158,427		
支 出 合 計				670,000	666,000		

復興チャリティーイベント　～ circle of smile ～　内容報告【参考資料】

【魚すくい】

■ ㈱ケンスイ様から仕入れた天然鯛、チヌ、あこう、渡かに、スズキなど300匹を超える魚を委員会メンバーで製作したプールに放し、子どもたちに魚とり網を使用しすくっていただきました。
子どもたちは大きなプールで泳ぐたくさんの魚を目の当たりにし、少しでも大きな魚を網ですくおうと必死に追いかけまわし大盛況となりました。その場ですくった魚はケンスイ様に絞めていただきました。

【チャリティー募金金額】
▶ 500円／回 ＊ 292人 ＝ 146,000円

【もの作り】

復興チャリティーイベント　～ circle of smile ～　内容報告【参考資料】

■ JR様、尾道ダイハツ様に出店いただき、缶バッチや子供安全免許証の製作、制服を着て記念撮影（両店とも）を行いました。両方のもの作りを体験で100円という金額設定が来場者には驚いていただき、たくさんの子供がもの作りに並ばれ喜んでいただきました。

【チャリティー募金金額】

▶ 100円／回 ＊ 200人 ＝ 20,000円

【しまなみ3JC】

■ しまなみ3JC事業として、今治JC・因島JCにも出店いただき、今治タオルや松愛堂のお菓子、

復興チャリティーイベント　～ circle of smile ～　内容報告【参考資料】

ご当地キャラクターのグッズなど物販していただきました。ご来場いただいたお客様も、尾道以外の品物を買うことが出来、満足いただきました。また、売り上げの一部を義援金として募金していただき、同じ目的の下、しまなみ3JCメンバーとの交流もより一層深めることが出来ました。

以　上

一般社団法人　尾道青年会議所　事業報告（案）

審議事項

委員会名：総務広報委員会
委員長名：鍋島　巧

（1）議案名

活動記録の整理・保存及び広報活動の実践・検証　事業報告(案)に関する件

（2）事業名

活動記録の整理・保存及び広報活動の実践とその検証

（3）事業実施に至る背景

これまで、尾道青年会議所ではＷｅｂサイト・Ｆａｃｅｂｏｏｋのみならず、事業ごとにチラシや他団体の広報誌に記事を掲載してもらうなど、様々な方法で活動記録の整理・保存及び広報活動を行ってきた。様々な手法を用いて行ってきた活動記録の整理・保存及び広報活動について、よりいっそう成果の向上を目指すために検証が必要である。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）

尾道青年会議所の事業告知や活動記録などの情報を効果的に発信し、より多くの方に活動に対する理解と興味を持って頂くことを目的とする。

ｂ．（対内）

青年会議所全体、或いは各事業において広報活動及び動員計画を検討・実践する際に参考資料として利用できるようにする事を目的とする。

（5）実施日時　　２０１８年　2月　7日（水）～１１月１１日（日）

（6）場　　所

（7）参加人員　　内部　名　　外部　名　　計　名

（内・外部内訳：）

（8）外部協力者

（9）事業の目的は達したか？

対外事業において、事業告知に関するアンケートを実施し、アンケート結果を集計できた事から事業の目的は達したと考えます。

(10) 実施上の問題点

豪雨災害により対外事業が少なかった為、アンケートの調査数が多く集められませんでした。

(11) 次年度への引継事項

今後も定期的に調査を行い情勢分析する必要があると考えます。

(12) 委員長所見

アンケート調査にご協力いただいた委員長の皆様に御礼申し上げます。

次年度以降本事業報告が活用されれば幸いです。

(13) 添付資料

検証結果

尾道商工会議所チラシ同封サービス利用案内

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

検証結果

①広報媒体の検証

①－１各報道機関の連絡先・担当者・プレスリリース提出先(１１月２９日現在)

社名/氏名	TEL/FAX	支社支局等 TEL/FAX
朝日新聞　尾道支局 北村　哲郎	TEL 0848-22-9131 FAX 0848-22-9132	福山　TEL 084-923-1152 FAX 084-926-1637
NHK 広島放送局　尾道支局 岩田　純知	TEL 0848-23-3351 FAX 0848-23-3352	広島　TEL 082-504-5231 FAX 082-504-5321
		福山　TEL 084-922-4162 FAX 084-922-7304
産経新聞　福山支社 服部　幸一	TEL 084-922-3000 FAX 084-920-8171	
山陽新聞　福山支社 松山　慎二	TEL 084-922-3035 FAX 084-921-3753	
中国新聞　尾道支局 久保木　要 村島　健輔 中間　卓也 田中　謙太郎	TEL 0848-22-5258 FAX 0848-20-0052	備後本社 TEL 084-923-1718 FAX 084-931-8626
中国放送(RCC)福山放送局 平田　毅	TEL 084-925-1530 FAX 084-923-8264	
毎日新聞　尾道支局 渕脇　直樹	平日 TEL 084-925-2121 FAX 084-925-2123	広島支局(土日祝) TEL 082-221-2181 FAX 082-223-5745
読売新聞　尾道通信部 藤岡　博之	TEL 0848-23-3211 FAX 0848-233212	福山支局　TEL 084-927-1111 FAX 084-927-1114
広島テレビ　福山支社 松本　拓也	TEL 084-923-4855 FAX 084-923-4879	
広島ホームテレビ　福山支社 松藤　好典	TEL 084-924-3652 FAX 084-924-0055	
テレビ新広島(TSS)福山支社 菱野　将史	TEL 084-931-1364 FAX 084-931-1362	
日本経済新聞	TEL 084-932-3345	

増渕　稔	FAX 084-932-3346	
備後レポート 二宮　恵	TEL 0848-22-2214 FAX 0848-23-2721	毎月1日・10日・20日発行 締切　3週間前
ちゅぴ COM おのみち (尾道ケーブルテレビ) 大塚　洋平	TEL 0848-24-0050 FAX 0848-24-0510	報道宛　TEL 0848-24-0511 FAX 0848-24-0234
経済リポート　尾三支局 西亀　悟 (福山 JC　高橋真木さん)	TEL 0848-20-6152 FAX 0848-36-6072	福山本社　TEL 0848-931-2000 FAX 084-921-0244 毎月1日・10日・20日発行 締切　3週間前
尾道エフエム 川村　佳己	TEL 0848-20-0794 FAX 0848-20-0795	
ビジネス情報 北原　美恵子	TEL 084-957-0666 FAX 084-957-0667	毎月1日・10日・20日発行 毎月1日・10日・20日発行 締切　3週間前
せとうちタイムズ 青木　忠	TEL 0845-22-7343 FAX 0845-22-7343	週刊のため締切は随時
広島 FM	TEL 082-251-2200 FAX 082-252-2050	広島市南区皆実町1-8-2

＊広島 FM 以外は尾道市役所記者室のポストに投函可

①－２　プレスリリースの提出状況と報道機関の取材状況

ﾌﾟﾚｽﾘﾘｰｽ	事業	山陽日日	経済リポート	中国新聞	備後レポート
提出	2月例会	○			
	4月例会	○			
	異業種交流会	○	○		
	9月例会	予告記事	予告記事		
	未来への挑戦				○
	復興イベント			予告記事	
未提出	防災授業			○	

山陽日日新聞が１１月１日づけで廃刊となりました。上記のとおり、取材の依頼がしやすく、記事の掲載率が高い新聞でした。報道では、発行部数２０００部だったとの事ですが、喫茶店や美容院・病院など様々な事業所の待合室におかれている事が多く、

実際目にする人数は発行部数の３、４倍はいたものと思われます。今後山陽日日新聞が廃刊になった事により広報活動の影響が出る事が予想されます。

①－３　その他の広報媒体について

Ａ．広報おのみち

尾道市の全世帯に配布。市役所・各支所などの公共施設のほか下記の場所に配布。
総合福祉センター、図書館、各公民館・分館、しまなみ交流館、人権文化センター、市民病院、尾道市立大学、びんご運動公園、尾道勤労青少年ホーム、ＪＡ尾道市本所および市内の各支所・出張所 など
事業告知を載せるには、実施事業に尾道市各課が関連している事が条件です。

Ｂ．町内会の回覧板

チラシを多数用意することなく、尾道中の世帯で閲覧してもらう事が可能です。
しかしながら、各町内会に個別に依頼しなければならず、尾道全域に回覧を頼む場合、相当な労力を必要とします。

Ｃ．尾道商工会議所だより

奇数月発行。実際の発行日は不定。発行部数２９００。尾道市内の商工会議所会員へ配布。事業告知を無料で掲載する事が可能。記事の大きさは「１ページ」「半ページ」「１／４ページ」。締め切りは２ヶ月前。（例　３月号に掲載するなら１２月末には依頼が必要）

●「広告チラシ同封サービス」の利用（詳細は別資料）

尾道商工会議所だよりにチラシを同封してもらう事が可能です。費用はＡ４サイズで２１，６００円ですが、交渉次第では無料になることもあるそうです。

同封サービスを利用する為には２９００部のチラシを用意し、発行前月 20 日までに商工会議所に納品する事が必要です。

連絡先　尾道商工会議所　総務課　総務課長代理　平井　歩様

D.尾道観光協会

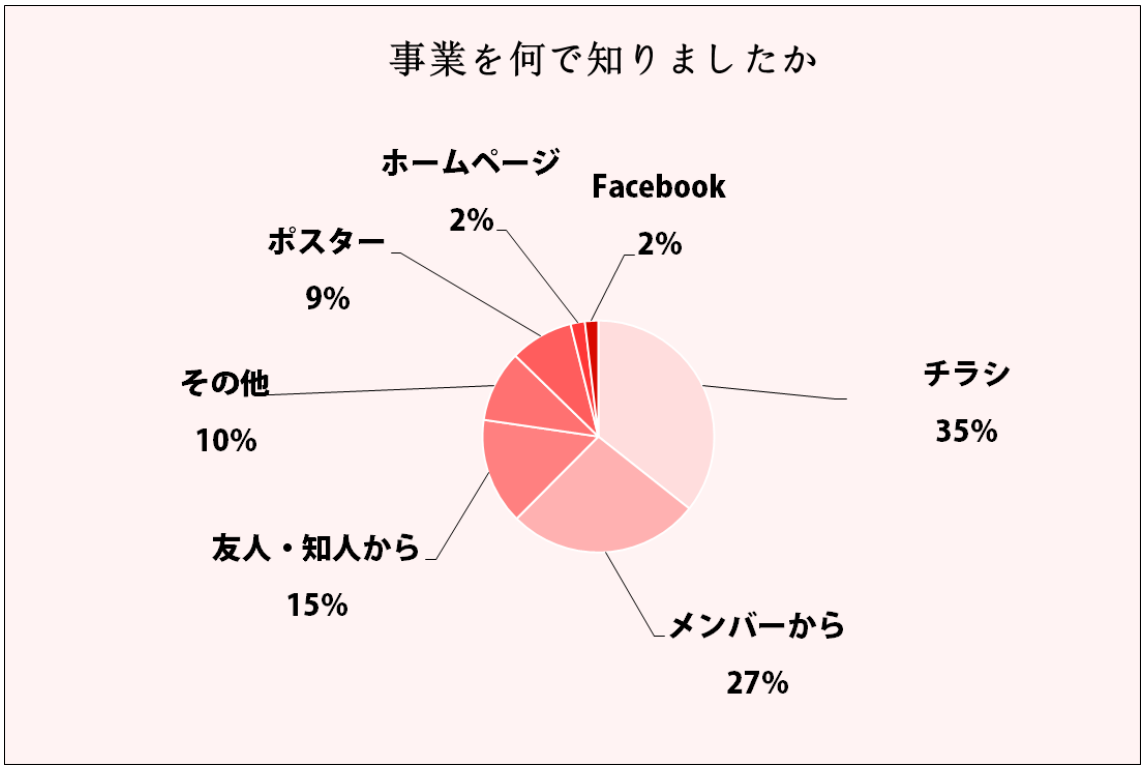
事業に関連していれば、尾道青年会議所のＦａｃｅＢｏｏｋ投稿を観光協会にシェアしてもらうことが可能です。観光協会にシェアしてもらうと閲覧数増加の効果が期待できます。今年度の事業では復興事業の投稿をシェアしていただきました。
シェア後１日で閲覧数が約３０００増加しました。

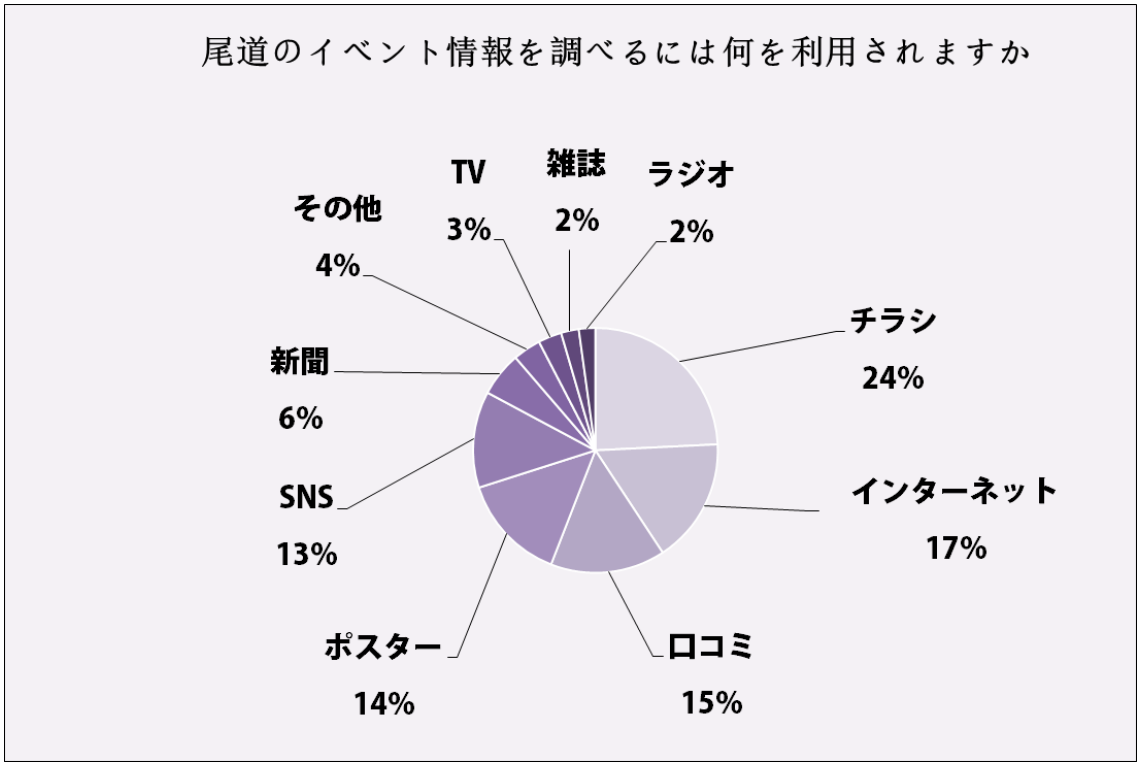
E.ポスター掲示

過去ポスター掲示協力の実績のある事業所をリスト化しました（尾道青年会議所現役メンバーの事業所は除く）。今後ポスター配布する際参考にしていただければ幸いです。

告知ポスター協力実績事業所	
尾道市内各小学校	啓文社
めぐみ幼稚園	田島接骨院、ホグレルフィットネス
新高山めぐみ幼稚園	三阪陶器店
門田保育園	ベイタウン尾道
今津保育園	フジグラン尾道
松永東保育園	ホテル港
るり保育園	ラテハートカフェ
いっとくグループ10店舗	商店街掲示板
フルール	尾道 FM
coyote	ちゅぴ COM おのみち
ままかり家Ⅱ	コンビニ（山波ローソン、栗原ファミマなど）
焼肉酒場伸	スタジオ Pick
maraco	スリール
nico	千光寺
おかし本舗	ゆきひろメイト
尾道市役所	ゆきひろストア
尾道観光協会	オンリーワン
尾道駅、東尾道駅	どさんこラーメン
商工会議所	村一番
シネマ尾道	R&R

②アンケート結果





今年度４つの対外事業においてアンケート調査を行いました。
開催された事業を何で知ったのかという問いに対して、一番多かったのがチラシ（３

５％）で、次いで「ＪＣメンバーから」の２７％でした。ＦａｃｅＢｏｏｋ及びホームページは夫々２％ずつで低い結果となっています。
一方、イベント情報を調べる方法については多い順にチラシ（２４％)、次いでインターネット（１７％)、口コミ、ポスター、ＳＮＳと続きますが、インターネットとＳＮＳをあわせると３０％になり、一般の方がイベント情報を調べるのにネット関係を多く利用している事がわかります。
以上のことから、事業の告知において、チラシの効果が大きく今後も告知方法の第一選択として必要と考えられます。
また、イベントを調べる方法としてネット関係が主流になりつつあるものの、実際、尾道青年会議所の事業をネットで認知している割合が非常に少ないというミスマッチがおきています。
この原因として、現状のホームページ・ＦａｃｅＢｏｏｋの閲覧数では拡散力として足りてない可能性や、現状のネットを利用した告知の手法が効果をあげていない可能性があります。
今後も定期的にアンケート調査を行い、情勢を分析する必要があると考えます。

平成３０年１１月吉日

尾道商工会議所だより広告チラシ同封サービス　ご利用のご案内

尾道商工会議所の会報誌『尾道商工会議所だより』に、会員企業の皆様方のＰＲチラシを同封する会員限定のサービスです。是非ともご利用下さい。

料金表（１回・税込）

・料　　金
●Ａ４サイズ（普通紙・上質紙）　　２１，６００円（税込）
●手丁合となるチラシ（例：コート紙）３２，４００円（税込）
（Ａ４サイズを超えるチラシは、Ａ４サイズ以内に折り込んで持ち込むこと。その場合は、手丁合料金となります。詳しくは、お問い合わせ下さい。）　　＜封入料・送料込＞
・発行部数：２，９００冊
・送 付 先：尾道商工会議所会員企業・官公庁他関係団体
・発 行 日：奇数月の１日、発行後３～１０日以内に到着予定
：但し、５月号は、１５日発行となります。

※ご注意ください※
発送日は月によって変動します。詳細はお問合せください。

ご利用にあたっての条件

・本サービスのご利用は尾道商工会議所会員に限ります。
・チラシのサイズはＡ４版以内とし、現物の持ち込みのみとします。
・パンフレットなど冊子型の封入物の利用はできません。
・チラシには、必ず事業所名を記載してください。
・封入するチラシは2,900部をご用意頂き、当所へ発行前月２０日までに納品して頂きます。
なお、残部が発生した場合は原則として返却いたしませんのでご了承下さい。
・申込受付時に当所が別途定める利用規定に同意すること
・**公序良俗に反するものなど、内容によってはお断りする場合があります。**
・本サービスの審査は、尾道商工会議所においておこない、お断りする場合、その理由を明示する義務は負いません。

申込期限

・封入希望月の前月５日まで　（サンプルのご提出も併せてお願いします）

納品期限

・封入希望月の前月２０日まで（当所へ納品）

お申し込みは・・

下記に必要事項をご記入の上、ＦＡＸにて下記宛お申し込み下さい。
※お申し込み受付後、詳細については、当所よりご連絡致します。

お問い合わせ：尾道商工会議所　会議所だより編集係り
ＴＥＬ：０８４８－２２－２１６５　ＦＡＸ：０８４８－２５－２４５０

尾道商工会議所　会議所だより編集係り 行　　（ＦＡＸ：０８４８－２５－２４５０）

チラシ同封サービス申込書

事業所名			㊞
担当者役職		担当者氏名	
住　　所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
e-mail			
チラシのサイズ ☑をつけて下さい	□Ａ４（普通紙・上質紙） □手丁合となるチラシ・例：コート紙・Ａ４以下に折ったチラシ		
チラシの内容	※サンプルを、本申込書と共にお送り願います。		
封入希望月 ☑をつけて下さい	（平成　　年）□1月号　□3月号　□5月号　□7月号　□9月号　□11月号		

※ご記入いただいた個人情報は、当所からの各種連絡・情報提供のために利用することがあります。

一般社団法人　尾道青年会議所　事業報告（案）決算（案）

審議　事項

委員会名：社会開発委員会
委員長名：河原　研介

（1） 議案名
地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践　事業報告（案）決算（案）に関する件

（2） 事業名
テーマ「自ら考え、生き残る防災」

（3）事業実施に至る背景
尾道市は、比較的災害の少ない地域と言われています。しかしながら、南海トラフ大地震では震度５強から６強の揺れが起こるといった脅威にさらされています。
そのような状況の中、尾道市、社会福祉協議会の皆様を始め多くの方々が防災についての啓蒙活動を懸命に行っております。そういった啓蒙活動をより効果的で持続可能にしていく取組みは必要不可欠であると考えます。

（4）事業目的（趣旨）
ａ．（対外）　教育現場での防災啓蒙を促進することで、市民の防災意識向上に寄与することとします。
ｂ．（対内）　ＪＣだからこそ出来る関係各所の連携を円滑にし、防災啓蒙活動の効果を最大限に高めることを目的とします。

（5）実施日時　　２０１８年　9月　7日（木）～　１１月下旬
（6）場　　所　　尾道市内小学校
（7）参加人員　　内部　２０名　　外部　６０９名　　計　６２９名
（外部内訳：尾道市教育委員会　１名・社会福祉協議会　１名
・尾道市内小学生　５８８名　・教諭　１８名　・ＰＴＡ　１名）

（8）外部協力者　防災アドバイザー・コラボレーター　諏訪　清二先生

（9）事業の目的は達したか？
日比崎小学校、栗原小学校、高須小学校の３校で授業実施させていただきました。
小学校での防災授業実施を通して、児童の理解を得やすい内容であったことや先生方からも本授業が使えるものであるとの回答をいただいたことから防災意識向上へ寄与できたのではないかと考えます。
また、教育委員会も授業への参加をしていただいただけでなく、同委員会へ授業パッケージを尾道市小学校へ配布する窓口になっていただくことが可能となりました。
以上より目的は達成できたと感じています。

(10) 実施上の問題点

もう少し早い段階で事業計画をしていれば、より多くの小学校で授業実施できたのではないかと思います。また、残念ながら都合により尾道市総務課は本授業に参加いただけませんでした。

(11) 次年度への引継事項

防災啓蒙は継続こそが是であると感じます。１１月３日に行われた地震体験などのように、実際に見て触れて実感するような工夫も必要だと言われている先生もいらっしゃいました。また、こういった防災啓蒙は地域が一体となって行っていかなければなりませんので、４社協定の連携をより強固にしていっていただければと思います。その上で今後、形にとらわれず新たな視点で防災啓蒙活動に取り組んでいってもらいたいと思います。

(12) 委員長所見

今年は異常なほど災害の多い年で、本当に辛い時期を過ごされた方も多くいることと思います。そのため、市民の防災に対する意識や興味も高まりつつあるなかでの事業となりました。

しかし、今後も防災という難しい課題を取り扱う以上、その意識を保ち続けることの難しさをどう解決するかが命題ではないかと思います。

(13) 添付資料

事業収支計算書（案）
収支計算明細書（案）
実施報告書（参考資料）
防災教材取得先一覧（参考資料）

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

事業収支計算書（案）

事業名　　"地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践団ーマ「自ら考え、生き残る防災」"

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差　異	備　考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入		150,000	150,000	0	
	事業費繰入収入					0	0
	登録料収入					0	
	販売収入					0	
	広告料収入					0	
	負担金収入					0	
	雑収入					0	
補助金等収入	国庫補助金収入					0	
	地方公共団体補助金収入					0	
	民間補助金収入					0	
	国庫助成金収入					0	
	地方公共団体助成金収入					0	
	民間助成金収入					0	
寄付金収入	寄付金収入					0	
	募金収入					0	
収入合計				150,000	150,000	0	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	予算額	決算額	差　異	備　考
事業費支出	事業費支出	会場設営費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
		小計		0	0	0	
		企画演出費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			企画費支出			0	
			演出費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
		小計		0	0	0	
		本部団関係費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			通信費支出			0	
			運送費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			渉外費支出			0	
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
			保険料支出			0	
			謝金支出	50,000	50,000	0	源泉込み
			会合費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		50,000	50,000	0	
		広報費支出	運営費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			通信費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
			PR費支出			0	
		小計		0	0	0	
		資料作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出	60,000	29,466	30,534	事務局
		小計		60,000	29,466	30,534	
		報告書作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		懇親会費支出	人件費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			飲食費支出			0	
			アトラクション費支出			0	
		小計		0	0	0	
		渉外費支出	役員渉外費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出			0	
			交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出		0	0	0	
		保険料支出		0	0	0	
		通信費支出		0	0	0	
		販売物品仕入支出		0	0	0	
		雑費支出		0	0	0	
	事業予備費支出			40,000			
余剰金					70,534		
支出合計				150,000	150,000		

●余剰金　　¥70,534　　については本理事会承認後、事業予備費に繰入れる。

収支計算明細書(案)

事業名　"地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践
テーマ「自ら考え、生き残る防災」"

＜収入明細書＞

中 科 目	小 科 目	細目	摘　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			150,000	150,000	0	
						0	
						0	
登録料収入						0	
						0	
						0	
			合　計	150,000	150,000	0	

＜支出明細書＞

中 科 目	小 科 目	細目	摘　要	予算額	決算額	差異	備考
事業費支出	講師関係支出	諸謝金支出	講師指導料　諏訪清二先生	50,000	50000	0	源泉込み
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	50,000	50,000	0	
	資料作成費支出	作成費支出	アンケート(復習問題)　588人*@3	60,000	1,764	58,236	事務局
	資料作成費支出	作成費支出	ワークシート(危ないを探せ)　80班*@30		2,400	-2,400	事務局
	資料作成費支出	作成費支出	回答用紙　中高学年　96班*@3		288	-288	事務局
	資料作成費支出	作成費支出	配布プリント　中学年 309人*@30*2		18,540	-18,540	事務局
	資料作成費支出	作成費支出	配布プリント　高学年 198人*@30		5,940	-5,940	事務局
	資料作成費支出	作成費支出	クイズカード　高学年　8班*@30*2		480	-480	事務局
	資料作成費支出	作成費支出	アンケート(学校用)　18クラス分*@3		54	-54	事務局
			小　計	60,000	29,466	30,534	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	0	0	0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	0	0	0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
			小　計	0	0	0	
	参加記念品代支出					0	
	保険料支出					0	
	通信費支出					0	
	販売物品仕入支出					0	
	雑費支出					0	
事業予備費支出				40,000			
余　剰　金					70,534		
支　出　合　計				150,000	150,000		

地域の安全を目指した社会開発の調査・研究・実践事業

「自ら考え、生き残る防災」
実施報告書

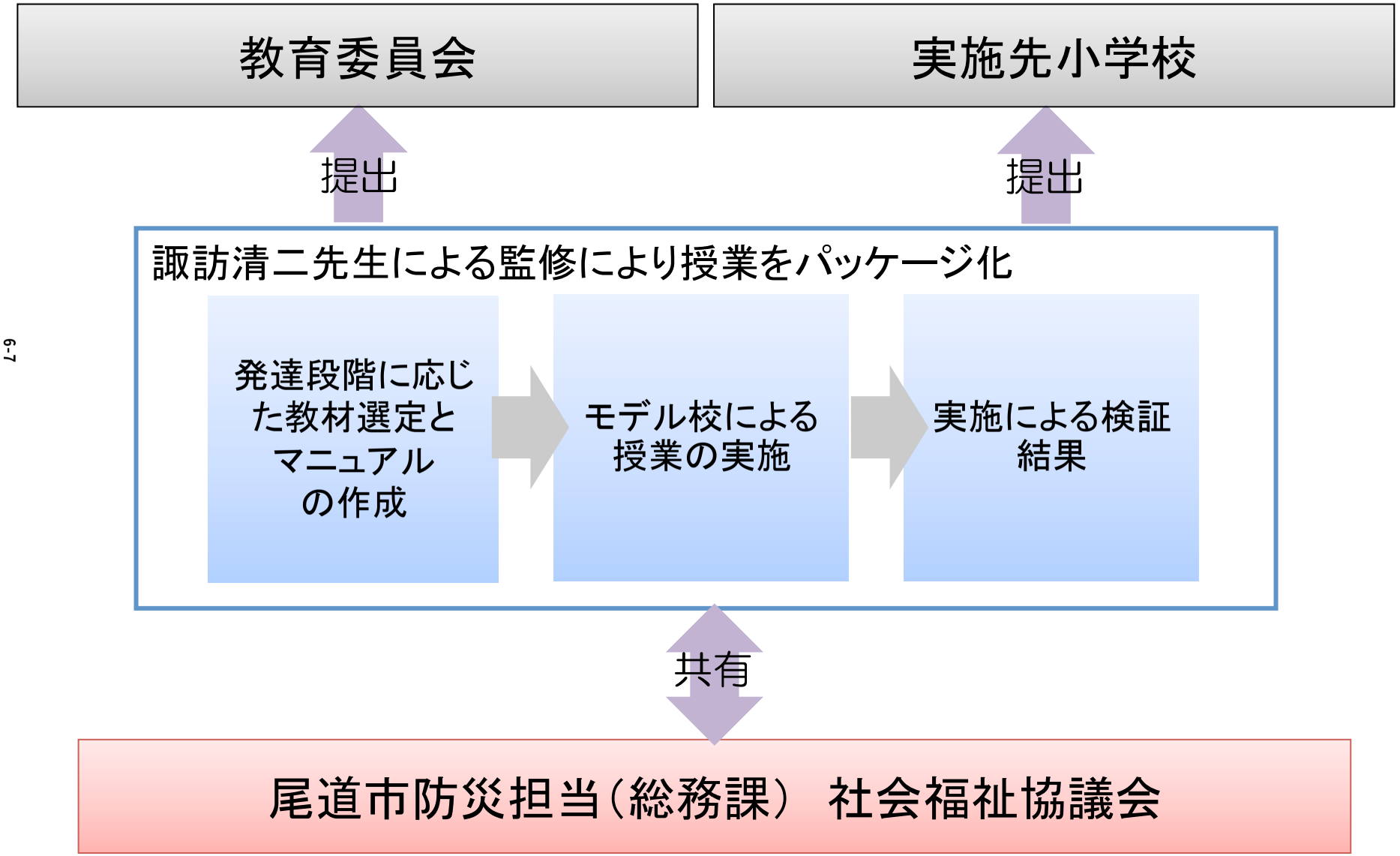
2018年度　(一社)尾道青年会議所
社会開発委員会

■■ 背景

南海トラフ大地震や土砂災害を始めとする脅威の存在
→啓発活動をより効果的で持続可能にしていく取組みの必要性

■■ 目的

教育現場での防災啓発を促進させ、
市民の防災意識向上に寄与


教育委員会
実施先小学校
提出
提出
諏訪清二先生による監修により授業をパッケージ化
発達段階に応じた教材選定とマニュアルの作成
モデル校による授業の実施
実施による検証結果
共有
尾道市防災担当（総務課） 社会福祉協議会

■■ 諏訪先生の防災教育感

子供達自らが災害の危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにすること。災害時にいつも大人が守ってくれるわけではない。

たまたま生き残るのではなく、適切な備えと臨機応変の判断力で主体的に生き残る人を増やすことが防災教育の目的

■■ 3つの防災教育

（1）命を守る防災教育　→　本事業で扱うテーマ

（2）心のケアと防災教育

（3）災害体験から学ぶ防災教育

■■ 命を守る防災教育

具体的な備えにフォーカス
低学年は自分の身は自分で守り、高学年は「自助」から「共助」へと
発達段階に応じてより社会的な意識付けを

発達段階別授業内容一覧

	題材（授業テーマ） 目標（ねらい）	概　要	命を守る防災教育		
			災害メカニズムの理解	具体的な備え	発生時の対応
低学年	**地震が起こったらどう身を守る？** 地震発生時に、自分の判断で身の安全を図ることができる。	教室の中の危険な場所を観察し、なぜ危ないかを考える。危険ではない場所で安全な姿勢をとれるようにする。		○	○
中学年	**家の中の危険を知ろう** 家の中の危険とその理由を考えることを通して、災害時の様々な危険を予測し備えることができる。	一番長く過ごす場所である寝室のある間取り図を見て、地震発生時にどこが危険で、それを回避するにはどう備えれば良いかを考える。		○	
高学年	**知恵と工夫でのりきろう** インフラ遮断状態を想定し、生き残るために必要な知恵と工夫を知る。	水、ガス、電気が遮断されることを説明し、班ごとに身近なものを使用してどう乗り切っていくかを考える。		○	

■■ 実施先小学校と実施クラス人数等

９月２８日	栗原小学校	３年生　３クラス
１０月１７日	日比崎小学校	１年生　３クラス
１０月１８日	日比崎小学校	３年生　２クラス
１０月１９日	日比崎小学校	５年生　３クラス
１０月３１日	栗原小学校	５年生　３クラス
１１月１４日	高須小学校	３年生　４クラス

合計　１８クラス　児童約５８８人に実施

尾道市児童全体の約９％

■■ 実施風景

■■ 中国新聞掲載

地震への備え 児童が学ぶ

尾道JC 出前授業始める

地震発生時の危険について話し合う児童

地震発生時の危険を回避する方法を学んでもらおうと、尾道青年会議所（JC）が尾道市内の小学生向けの出前授業を始めた。最初の授業が28日、栗原小（西則末町）であった。

同JCの会員が3年生計約90人に、地震が発生する仕組みや、阪神大震災などが住宅に及ぼした被害を解説。「物の下敷きになって死亡するケースが目立つ」と説明した。

児童は班ごとに分かれ、地震が起きた時に本棚が倒れたり、窓ガラスが割れたりする危険を探すグループワークに取り組んだ。吉原悠生君(9)は「家の中の危険をなくし、地震に備えるよう家族で話し合いたい」と話していた。

同JCは昨年、県内で初めて市と災害協定を結ぶなど、防災に力を入れている。意識を高めてもらおうと出前授業を企画した。10、11月は日比崎小、高須小でも実施する。（中間卓也）

湖畔臨む地でジャズ演奏会

世羅で7日

世羅町出身で大妻女子大（東京）を創立した大妻コタカ（1884～1970年）の生

■■ 児童と先生方へのアンケート調査検証結果

防災教育の必要性への理解を得ることができ、
また今回の各授業が生徒の理解を促すことができる授業内容で、かつ多忙な先生方にとって有効なツールとなることがわかった。

■■ 児童へのアンケート調査

低学年（地震がおこったらどう身を守るかな） ８１人

（１）	授業のわかりやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「わかりやすい」	98%
（２）～（４）	授業内容の復習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正解率	97%
（５）	またこのような授業をしても良いと思うか・・	「思う」	100%

中学年（家の中の危険を知ろう） ３０９人

（１）	授業のわかりやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「わかりやすい」	97%
（２）	地震がいつおこるかわからないと思うか・・・	「思う」	87%
（３）～（４）	授業内容の復習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正解率	100%
（５）	「あぶない場所」の対策への理解	「わかった」	100%
（６）	地震に対する準備の大切さ	「わかった」	100%
（７）	またこのような授業をしても良いと思うか・・	「思う」	100%

高学年（知恵と工夫で乗り切ろう） １９８人

（１）	授業のわかりやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「わかりやすい」	100%
（２）	地震がいつおこるかわからないと思うか・・・	「思う」	100%
（３）（５）	授業内容の復習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正解率	100%
（４）	工夫したら使えるものがある事がわかったか	「わかった」	97%
（６）	またこのような授業をしても良いと思うか・・	「思う」	100%

■■ 学校（担当教諭）へのアンケート調査

18人の担当教諭へ実施

（1）	授業への満足度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「よかった」	100%
（2）	児童に学んで欲しい事がわかったか・・・・・・・	「わかった」	100%
（4）	学校教育の場で防災教育が必要と思うか・・・	「思う」	100%
（5）	今回の授業は今後使えそうだと思うか・・・・・・	「思う」	100%

（3）-1 良かった点

低学年

・あぶないところを探そうというのは子供達にとってもわかりやすく、よかった。
・実際に話をきいたあとに地震がきたらどこに逃げるかを考えさせていた点
・実際に動いてみたり、危険なところを探したりする活動がよかった。

中学年

・どのグループも積極的に話し合うことができ、「危ない」場所について学べた。
・大切なことが繰り返しでてきたこと 3つの危ないを学んだ後、自分の家や学校、外にも「危ない」があることをふりかえることでより深い学びになった。　・普段扱わない内容なので興味をもって聞いていた。
・班で危険な場所を話し合わせているのがよかった。
・わかりやすく絵を使って説明してあり、具体的にどんなことをすればよいかがわかりやすかった。

高学年

・楽しみながら防災について学ぶことができた。　・クイズ形式で楽しく学ぶことができた。
・ゲーム感覚で楽しめた点　・紙皿の折り方を実際に体験できた。　子供達が興味をひくようにクイズで授業をしていた点　・ものがあった点、ゲーム感覚で考えられたこと

■■ 学校（担当教諭）へのアンケート調査

（3）-2　改善すべき点

低学年

・あるところは担任に任せてもらえるとよかったかもしれません。

中学年

・パワーポイントでもう少し言葉の説明があってもよかった。
・3年生ではグループを4、5人にしたほうが議論しやすいように思う。
・クラスの実態にもよるが、3、4人程度でのグループワークにしたほうがよかった。
・聞かせるところと、活動させるところのメリハリがもう少しほしかった。
・もう少し時間があればよかった。

（6）教育現場で防災教育を普及させるには、行政や地域、専門家などどういった支援が必要でしょうか。

・専門的な知識やカリキュラムがあれば活用したい。　・防災マップなどの情報を定期的に発信してほしい。　・現在のそれぞれの学校での具体的な防災措置について色々な方面から子供のときから自分の身を守る為に防災教育をする必要があることを働きかけてほしい。　・今回のような具体的な写真やデータを示していただくことで、児童の興味をひくことができ意欲的に学ぶことができると思う。　・時数の確保やカリキュラムの見直し　・地震や津波など経験したことのない災害は子供達にもわかりにくいので実際の写真や絵など学校ではなかなか準備できなかったり専門的に教えていただくと助かる。　・今後ますます必要になってくると思います。
・防災訓練時、外部機関と連携する。・今回の話のように実際に使えるアイデアやどう乗り切ったのか過去の実体験を教えていただけると役立つ　・ハザードマップなどわかりやすいデータがあると使いやすい

■■ 学校（担当教諭）へのアンケート調査

（7）市民の防災意識を向上させる事は尾道市の課題ですが、有効な手段はあるでしょうか。

・学校で学んだことを保護者や地域に発信する場を設ける。
・定期的に話し合う機会があれば良いと思います。
・市で取り組む防災訓練 さまざまな災害が起きる危険性があることや、実際に想定される被害の程度、危険箇所などなるべく具体的かつ誰にでもわかるような情報に繰り返し接することが必要と思う。
・自分は大丈夫というバイアスを変えるのは難しいと思う。
・学校で学んだことを家に帰って再確認することで児童自身にも定着し、家庭での防災意識向上につながるのではないでしょうか。
・子供を対象に防災授業を行うことが１番大人へ与える影響が大きいと思います。
・このような講座を地域でも開く。
・今回の断水は子供達にとっても印象的な出来事だったようです。家の裏がくずれたという子もいたので、今回の経験をもとにお話していただくのもよいと思います
・啓発として、出前授業は大変有効であると思います。
・保護者にも知らせる機会があればもっと良いと思います。（参観日など）
・一斉防災訓練やフィールドワーク（避難場所、危険箇所など）もあればもしもの時に備えられると思います。
・備蓄の仕方など　・釜石市など先進的に防災についてされている市町村を参考にするといいかもしれません。　・ハザードマップの町内掲示　・先日のイベントで地震のゆれの体験があったのですが、そのように体験したり、実際に体験した方の話を聞いたり、写真を見たりして災害の恐ろしさを忘れない工夫が大切だと思います。

■■ 各学校や教育委員会への配布とお願い

防災教育の必要性は皆様ご理解のことと思いますが、同時に実施主体である先生方は多忙を極めております。このギャップをどうにかして埋めるために、だれでもいつでもこの授業を使用できるようにと考案させていただきました。

アンケートでもありましたように、子供の大人に対する影響力はとても大きく、こういった授業に繰り返し触れる機会を与えることで、その影響力を発揮できるのではないかと思います。

防災教育の範囲はとても広く、今回用意させていただいた授業はほんの一部です。しかしながら、毎年この授業を使用して授業をしていただくだけでも大きな一歩となると信じております。

是非2019年度以降、本授業を各小学校で運用していただければ幸いです。

2018年度 （一社）尾道青年会議所
社会開発委員会
委員長　河原　研介

防災教材取得先一覧（参考資料）

（一社）防災教育普及協会
http://www.bousai-edu.jp/info/kyouzaiguide_support/

ＮＰＯ法人　プラス・アーツ
http://plus-arts.net/

防災教育チャレンジプラン
http://www.bosai-study.net/link/

ＴＥＡＭ防災ジャパン
https://bosaijapan.jp/education/

防災教育ポータル（国土交通省）
http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html

一般社団法人　尾道青年会議所　事業計画（案）予算（案）

審議　事項

委員会名：拡大研修委員会
委員長名：高升　純

（1）議案名　　新入会員研修の調査・研究・実践 事業計画（案）予算（案）に関する件

（2）事業名　　新入会員研修

（3）事業実施に至る背景

本年度は、新入会員向け説明会、仮入会員研修、を経て青年会議所のおおまかな流れと全体像を認識できている中、２０１８年度新入会員として、人材成長の機会を設ける必要があります。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）

ｂ．（対内）　ＪＣの理念や目的を確認し、能動的市民（Ａｃｔｉｖｅ　Ｃｉｔｉｚｅｎｓ）になるための基礎や手法を学ぶことを目的とします。

（5）事業概要

ａ．実施日時　２０１８年１２月　８日（土）　１７：００～２０：００

ｂ．場　　所　商工会議所　２階　大会議室

ｃ．予算総額　￥７０，０００（詳細は別紙予算書）

ｄ．参加人員　内部　　３５名　　外部　　１名　　計　３６名

（内部内訳：理事長１名、直前理事長１名、総務室副理事長１名、２０１９年度理事長予定者１名、専務理事１名、事務局長１名、財政局長１名、理事セクレタリー１名、セクレタリー２名、拡大研修委員会１０名、２０１８年度新入会員７名、２０１７年度入会者８名）

ｅ．動員計画

ｆ．外部協力者　公益社団法人日本青年会議所　公認トレーナー　嶋崎　知実　氏

ｇ．実施組織・推進リーダー　拡大研修委員会　委員　内海　洋平

ｈ．実施手順・プログラム

２０１８年１０月３０日（火）	第１０回正副理事長会議	協議
２０１８年１１月　９日（金）	第１１回理事会	協議
２０１８年１１月２７日（火）	第１１回正副理事長会議	審議
２０１８年１２月　４日（火）	第１２回理事会	審議
２０１８年１２月　８日（土）	新入会員研修	実施

（6）事業内容（目的達成のための手法説明）

公益社団法人日本青年会議所公認トレーナーの嶋崎知実氏をお招きし、「人材成長の機会プラン」

として次世代におけるＬＯＭの中心となる人材を育成するためのセミナーであるＪＣプログラム「ＪＣＩ－Ａｃｈｉｅｖｅ」を開催します。
ＪＣの理念や目的を確認し、能動的市民（ＡｃｔｉｖｅＣｉｔｉｚｅｎｓ）になるための基礎や手法を学びます。
「ＪＣＩ―Ａｃｈｉｅｖｅ」では、セレモニーの意味とは、ＪＣの目的とは、他の団体との違いについて学び、やりがいをもって活動をするために必要不可欠な知識を取り入れることができます。
ＬＯＭの意義や目的を事例研究やディスカッションにより理解していきます。

（7）過去の検証・本年の工夫と期待される効果
近年尾道青年会議所としてはＪＣの理念や目的を学ぶためにＪＣプログラムを活用されていません。
基本理念や目的をＪＣプログラムによるセミナー受講により、能動的市民「ＡｃｔｉｖｅＣｉｔｉｚｅｎｓ」となれる人材を創造できると期待します。
能動的市民「ＡｃｔｉｖｅＣｉｔｉｚｅｎｓ」の存在は更なる新たな会員を募る力になり、その存在は今後のまちづくりの「礎」となると期待します。

（8）審議のポイント
内容・予算について

（9）会議での意見とその対応
意見）２０１８年度新入会員と２０１７年度入会会員にした意図は？
対応）新入会員と近年入会者に受講していただきたいからですが、近年入会者以外でも受講可能とします。

(10) 他委員会への依頼事項等
当委員会から案内致しますが、各委員会より重ねての案内を宜しくお願い致します。

(11) 添付資料
事業収支予算書（案）
収支予算明細書（案）
新入会員研修　次第（案）
新入会員研修会場図（案）
講師プロフィール
ＪＣＩ－Ａｃｈｉｅｖｅ（参考資料）
ＪＣＩ－Ａｃｈｉｅｖｅ参加者用マニュアル（参考資料）

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

事業収支予算書(案)

事業名　　新入会員研修

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	前年度予算	本年度予算	差　異	備　考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入			70,000	-70,000	
	事業費繰入収入						
	登録料収入						
	販売収入						
	広告料収入						
	負担金収入						
	雑収入						
補助金等収入	国庫補助金収入						
	地方公共団体補助金収入						
	民間補助金収入						
	国庫助成金収入						
	地方公共団体助成金収入						
	民間助成金収入						
寄付金収入	寄付金収入						
	募金収入						
収入合計				0	70,000	-70,000	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	前年度予算	本年度予算	差　異	備　考
事業費支出	事業	会場設営費支出	人件費支出				
			食事代支出				
			会場費支出		14,000	-14,000	尾道商工会議所
			設営費支出				
			運送費支出		5,000	-5,000	セミナーバッグ運送費
			レンタル料支出				
		小計		0	19,000	-19,000	
		企画演出費支出	人件費支出				
			食事代支出				
			企画費支出				
			演出費支出				
			旅費交通費支出				
		小計		0	0	0	
		本部団関係費支出	人件費支出				
			食事代支出				
			会場費支出				
			設営費支出				
			旅費交通費支出				
			通信費支出				
			運送費支出				
			消耗品費支出				
			レンタル料支出				
			保険料支出				
			渉外費支出				
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出				
			旅費交通費支出		29,040	-29,040	フジトラベルサービス
			宿泊費支出		9,936	-9,936	グリーンンヒルホテル尾道
			保険料支出				
			諸謝金支出		10,000	-10,000	公益社団法人日本青年会議所
			会合費支出				
			記念品代支出				
		小計		0	48,976	-48,976	
		広報費支出	運営費支出				
			会場費支出				
			設営費支出				
			通信費支出				
			消耗品費支出				
			レンタル料支出				
			作成費支出				
			PR費支出				
		小計		0	0	0	
		資料作成費支出	通信費支出				
			資料費支出		210	-210	事務局
			消耗品費支出				
			レンタル料支出				
			作成費支出				
		小計		0	210	-210	
		報告書作成費支出	通信費支出				
			資料費支出				
			消耗品費支出				
			レンタル料支出				
			作成費支出				
		小計		0	0	0	
		懇親会費支出	人件費支出				
			会場費支出				
			設営費支出				
			旅費交通費支出				
			運送費支出				
			レンタル料支出				
			保険料支出				
			飲食費支出				
			アトラクション費支出				
		小計		0	0	0	
		渉外費支出	役員渉外費支出				
			記念品代支出				
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出				
			交通費支出				
			宿泊費支出				
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出			0		
		保険料支出			0		
		通信費支出			216	-216	三井住友銀行
		販売物品仕入支出			0		
		雑費支出			0		
	事業予備費支出				1,598		
支出合計					70,000		

収支予算明細書（案）

事業名　新入会員研修

＜収入明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			70,000	
合　　計				70,000	

＜支出明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	備考
事業費支出	会場設営費支出	会場費支出	会場費	14,000	尾道商工会議所
		運送費支出	セミナーバッグ運送費（往復）	5,000	
	小　　計			19,000	
	資料作成費支出	資料費支出	紙資料（3円×2×35人）	210	事務局
	小　　計			210	
	講師関係費支出	謝礼金支出	セミナー開催負担金	10,000	公益社団法人日本青年会議所
		旅費関係費支出	羽田～広島　飛行機利用（往復）	29,040	フジトラベルサービス
		宿泊費支出	宿泊費	9,936	グリーンンヒルホテル尾道
	小　　計			48,976	
	小　　計			0	
	小　　計			0	
	参加記念品代支出				
	保　険　料　支　出				
	通　信　費　支　出		振込手数料	216	三井住友銀行
	販売物品仕入支出				
	雑　　費　　支　　出				
事業予備費支出				1,598	
合　　計				70,000	

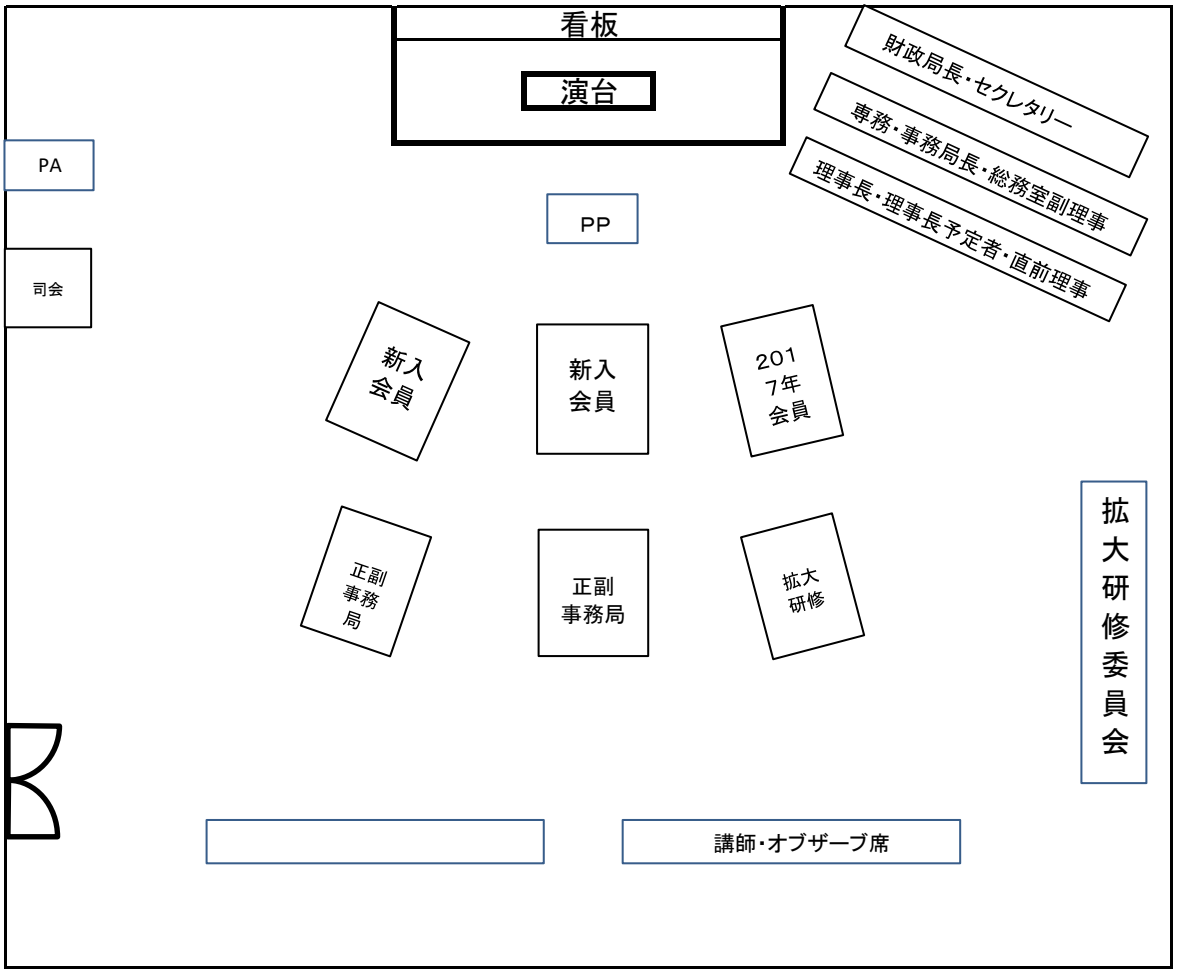
一般社団法人 尾道青年会議所

２０１８年度　新入会員研修 次第（案）

日時：２０１８ 年１２月　８日（土）
１７：００～２０：００
場所：尾道商工会議所２階　大会議室

１．	開会	１７：００
２．	点鐘	
３．	国歌並びに JC ソング斉唱	
４．	JCI クリード唱和	
５．	JCI ミッション並びにＪＣＩビジョン唱和	
６．	JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	
７．	出席者の確認	
８．	配布資料の確認	
９．	理事長挨拶	１７：１５
１０．	委員長趣旨説明	１７：１８
１１．	「ＪＣＩ－Ａｃｈｉｅｖｅ」 講師：公益社団法人日本青年会議所公認トレーナー　嶋崎　知実　氏	１７：２０
１２．	副理事長総括	１９：５５
１３．	点鐘	２０：００
１４．	閉会	

新入会員研修　会場図


看板
演台
財政局長・セクレタリー
専務・事務局長・総務室副理事
理事長・理事長予定者・直前理事
PA
PP
司会
新入会員
新入会員
2017年会員
正副事務局
正副事務局
拡大研修
拡大研修委員会
講師・オブザーブ席

JCI Japan Training
公益社団法人　日本青年会議所

トレーナープロフィール

記入日時（西暦）	2018	年	1	月	22	日
フリガナ	シマザキ トモミ					
氏名	嶋崎 知実					
ニックネーム	ザッキー					
LOM名	東京		ブロック名		東京	
生年月日（西暦）	1977	年	1	月	2	日
勤務先	㈱アーク・コンサルティング・ジャパン					
勤務先役職	代表取締役					
趣味／特技	卓球・ゴルフ					
信条	一期一会					

	LOM歴		出向歴 JCI／日本JC／地区／ブロック			主要会議参加歴／参加会議に〇				
	会議・委員会名	役職名	出向先	会議・委員会名	役職名	開催年		全国大会	ASPAC	世界会議
2010 年	新宿区委員会	委員				2010	年	小田原・箱根	シンガポール	大阪
2011 年	新宿区委員会	書記 幹事				2011	年	名古屋	マニラ	ブリュッセル
2012 年	新宿区委員会	副 委員長				2012	年	北九州	香港	台湾
2013 年	新宿区委員会	委員				2013	年	奈良	光州	リオ・デジャネイロ
2014 年	新宿区委員会	委員				2014	年	松山	山形	ライプチヒ
2015 年	新宿区委員会	副 委員長				2015	年	八戸	コタキナバル	金沢
2016 年	新宿区委員会	委員長	日本 JC	財務運営会議	委員	2016	年	広島	高雄	ケベック
2017 年	会員拡大 特別会議	副 議長	日本 JC	道徳教育 推進委員会	委員	2017	年	埼玉中央	モンゴル	アムステルダム

JCI トレーナーレベル			
トレーナー資格	プログラム名	資格	取得年（西暦）
	JCI-achieve	☑ HT ☐ AT	2017 年
	JCI-impact	☑ HT ☐ AT	2017 年
	マインドマッピング	☐ HT ☑ AT	2017 年
		☐ HT ☐ AT	年
		☐ HT ☐ AT	年
		☐ HT ☐ AT	年

ＪＣＩ－Ａｃｈｉｅｖｅ（参考資料）

JCI SEMINAR PROGRAM

JCI Achieve

PROGRAM CATEGORY：JCI OFFICIAL

プログラム概要

JCI Achieve は、LOM の意義や目的を、事例研究やディスカッションにより理解するコースです。 全世界の JC が取り組む「JCI ミッション」を LOM の活動に効果的に取り入れるために、地域特性を理解し、その価値を認識し、積極的な市民である新メンバーが求める機会を創造することにより、より良い変化をもたらせるような魅力的な組織を構築する方法を学びます。

スケジュール

- モジュール１　価値観
- モジュール２　アイデンティティ
- モジュール３　目的
- モジュール４　成果

備考

- **所要時間　…　3 時間**
- **参加人数　…　6 人～30 人**
- **対象……　JC メンバー**

参加者用マニュアル

JCI Achieve

JCI LOM 開発コース

バージョン 01, 2013 年 1 月

JCI 公式コース

JCI のビジョン

「若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること」

JCI のミッション

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるための発展・成長の機会を提供すること」

JCI について

JCI は 100 か国以上の 18～40 歳の行動的な若い市民による、会員制の非営利団体であり、それぞれの地域で積極的な変革を引き起こすために尽力している。各 JCI メンバーは、持続的で積極的な変革を引き起こすには、自分自身と自らを取り巻く世界を改善しなければならないという信念を共有する。JCI メンバーは問題を見極め、影響力のある、目標に合った解決策を生み出すことで、それぞれの地域に責任を持つ。

© 著作権 JCI: 無断複写・転載を禁ず

このマニュアルは、JCI 公式コースへの参加者のみが使用するもので、この目的でのみ複製することができる。JCI 公式コースは全てオンラインで企画するものとし、参加者は、マニュアル使用の資格とコース卒業の認定を受けるため、必ず各自でオンライン登録しなければならない。

この発行物の全部、またはその一部を JCI 事務総長の明示的な許可なく他の言語に翻訳することはできない。

発行者

国際青年会議所 (JCI)
15645 Olive Boulevard – Chesterfield, MO 63017, U.S.A.
Tel: +1 (636) 449 3100 – Fax: +1 (636) 449 3107
Toll free (from USA only): 1 800 905 5499
E-Mail: training@jci.cc - Website: www.jci.cc.

コースの概要

JCI Achieve **、 JCI LOM開発コース**では、ディスカッションおよび学習活動を通じて、自らの価値観、JCIの価値観および理念、LOMのアイデンティティ確立に際してのメンバー全員の役割、およびJCIミッションの達成に必要とされる活動について理解する。

JCI Achieve は半日コースであり、JCI LOMの理念、意味、目的、およびダイナミクスを完全に理解したいと希望する全ての新規会員が受けるべきものである。

プログラム

JCI Achieve は半日コースで、次のモジュールに分かれている:

モジュール1 –価値観
モジュール2 – アイデンティティ
モジュール3 –目的
モジュール 4 –成果

JCI Achieve

JCI 綱領（クリード）

「我々はかく信じる：

信仰は人生に意義と目的を与え、

人類の同胞愛は国家の主権を超越し、

正しい経済の発展は、自由経済社会を通じて
最もよく達成され、

政治は人によって左右されず法によって
運営されるべきものであり、

人間の個性はこの世の至宝であり、

人類への奉仕が人生最善の仕事である」

年は 1946 年、場所は米国ウィスコンシン州ミルウォーキー。ここで米国青年会議所の会議が開かれ、カナダ、メキシコ、南米、ヨーロッパ、およびフィリピン諸島から来訪者があった。この会議の場で、JCI クリードというアイデアが生まれた。

オハイオ青年会議所の元会頭と、米国青年会議所副会頭 C・ウィリアム・ブラウンフィールドはこの会議で、組織にまだ綱領がなかったことに気が付いた。彼は「自由が生きるか死ぬかというまさしく草の根で、千の異なる方法で人類に奉仕するという目的」への青年会議所メンバーの献身に心を動かされた。

ブラウンフィールドは、青年会議所は「世界における新しい力の可能性、危機の時に我々が選ぶ生き方について勝敗のバランスを変えることができる可能性」であるとみなした。

綱領の実際の文面は、1946 年 7 月、ブラウンフィールドが故郷であるオハイオ州コロンバスからニューレキシントンの自分の炭鉱へ向かう 75 分程のドライブの間に生まれた。彼は、綱領を作るという堅い信念を持って出かけたのである。そのドライブの間に、以下の文句が思い浮かび、それを紙に書き付けた。

人類の同胞愛は国家の主権を超越する。

正しい経済の発展は、自由経済社会を通じて最もよく達成される。

政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものである。

人間の個性はこの世の至宝である。

人類への奉仕が人生最善の仕事である。

冒頭部分の*「我々はかく信じる：信仰は人生に意義と目的を与え」*は、1950 年に付け加えられた。

綱領ができてから、世界中の青年会議所の会員は、各地、国、国際レベルの会議や会合で綱領を皆で朗唱している。その間にも、綱領の解釈には多くの議論があった。作者自身は「各メンバーが、自らの良心に照らして綱領を自由に解釈してかまわない」と述べている。

以下の解釈はブラウンフィールド自身の観点と、組織にとって綱領が意味していると、一般に信じられ理解されている見方に基づいている。

ブラウンフィールドによる JCI クリードの解釈

「我々は確信じる：」

人は誰でも何らかの理想や理念、哲学などを信じているはずである。信じるということは、真実だと信じることを実践することである。

「(神への)信仰は人生に意義と目的を与え」

ここの「神」は、特定の宗教上の神を指しているのではなく、至高の全能者を意味している。自分の神が誰であり、何であるかは重要ではない。この行はただ、何かを信じなければならないと言っている。ブラウンフィールドは、それを次のように説明した。「青年会議所のメンバーは、多くの宗教的背景を持つが、信仰という共通の絆で結ばれている。人間は自らの神の意志によって生き、人間への神の意志は善である。そして価値のある人生とは、神の永遠の計画と調和した人生である」

「人類の同胞愛は国家の主権を超越し」

この行は人類の思い込みによるすべての境界を取り除く。簡単に言うなら、すべての男性と女性が平等であることを意味する。国に対する忠誠心は尊重するが、同時に、

人間は世界市民であるという考えが強調されている。ブラウンフィールドはそれを次のように表現する。「人間が作る境界が繰り返し引かれることで、人類は多くの国に切り離されてきた。しかし、こうした不自然な分割を越えて、芸術、科学、商業、および宗教上の交流が続いてきた。これは人類の普遍的な同胞愛の証拠であり、基本的な価値は人間による領土の分割ではなく、人間自身にあるという証拠である」

「正しい経済の発展は、自由経済社会を通じて最もよく達成され」

ここで重要な意味を持つ語句は「…最もよく達成され」である。青年会議所のメンバーは、人間は自らの技能と能力を限界まで自由に使い、その経済状態を向上させるべきだと信じている。ブラウンフィールドは、それを次にように表現した。「経済が最大に発展した場合、人間は、これまで決してなされなかったことをするか、またはそれを改善することで、個人の財産を作るという自分の夢を追う自由がある。…民間企業による自己啓発システムはさまざまに変化させることで、世界の多くの地域の状況に適応できるだろう」

「政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものであり」

綱領のこの信条は、誰も法の上に立つべきでなく、法は、社会的地位にかかわりなく、全ての人間にとって同じであるべきことを意味している。政府は、国民の大多数が受け入れ、承認した憲法に基づかなければならない。法律を変える権限、政府を選ぶ権限は、国民の大多数の手に帰するべきである。アブラハム・リンカーン（第 16 代合衆国大統領）は、「人民の、人民による、人民のための」政府について演説した。綱領のこの行は、リンカーン大統領が何十年も前に語ったことを明確な形で表現している。ブラウンフィールドはその意味を次のように表現した。「自由社会では、基本法は人民から生まれる。最終的な権限を持つのは人民なのだ」

「人間の個性はこの世の至宝であり」

全ての個人には、それぞれ異なる独自の個性がある。それが、人間と地球の他の生物との主な違いである。この独自性が、人間の個性をこの世で最もすばらしい宝物にしている。個性はまねをすることも、作り出すこともできない。この行に関するブラウンフィールドの見方は以下の通りである。「本当の宝物は人間の心にある。私たちの周りには、人間の個性を培う広範な機会がある。人生に魅力を与えるのは、人生の量つまり長さではなく、その質であり、我々が人類の進歩の点で成し遂げる達成である」

「人類への奉仕が人生最善の仕事である」

綱領のこの最後の信条は、ここまでの行の論理的な極みである。綱領を信じる人は、間違いなく、人類への奉仕が人生最善の仕事だとわかるはずである。人類という言葉に注意してほしい。綱領のこの行についてのブラウンフィールドの説明は次の通りである。「無欲で送る人生は、より豊かで、より深く、より満たされる。喜びはより長く続き、心の平和はゆるぎがない。世の中の人々は、そのような人生でなされた貢献を見て、その人生を生きた人を人類の恩人とみなす。しかし彼は、本当は自分自身がよりすばらしい利益を得たことを知っている」

綱領についてのメンバーの解釈がどのようなものであれ、その人は常に自分が信じることを実践するべきである。綱領を変えようと何回も試みられたが失敗に終わった。綱領は長年にわたって使われ、組織を結びつける取決めとして存在し続けている。多くのメンバーが、この綱領を自分の人生の指針としてきた。

組織のアイデンティティ

組織（またはどんな会社であれ）はまた、アイデンティティを確立しなければならない。JCI には既に名前とロゴがあるが、これは、他の組織と差別化するのに十分ではない。

組織のアイデンティティは、時間と共にただの名前であることを越えて、その名前の周りで築き上げられる評判となる。

あなたの LOM の場合、地域に設立されたときには、ただ名前があるだけで、おそらく認知されていなかっただろう。時間がたつにつれ、組織のアイデンティティはただの名前ではなく、組織が自ら築き上げた評判となる。組織がどう認知されるかが、あなたが地域でどんなアイデンティティを持つかを決定する。

組織が評判を確立するのは、名前やロゴではなく、そのアイデンティティによってである。

組織の目的

組織の目的は、ただミッションを作り、ウェブサイトや刊行物や会合の場でそれを掲示する以上のことを意味する。

可能性を最大にするため、全ての組織（大小を問わず）は、何を目指し、そこへどうやって到達したいかというはっきりした目的を持たなければならない。明確な目的があることで、組織の全員が一つにまとまり、長期にわたる指針となる。

組織のビジョンは、会頭やディレクターやリーダーのためだけに存在しているのではなく、組織内のあらゆるレベルで存在しなければならない。だが同時に最も重要なのは、メンバー一人ひとりが、なぜ自分がメンバーであり、自分が努力することで何を築き上げているかを知っていて、組織のために働くことである。

ここに挙げたのは、組織の目的が必ず存在しなければならない3つの主要なレベルであり、それぞれの目的について明確に理解し、注意して従う必要がある。

- **国際レベル**では、組織全体のビジョンとミッションがあり、明確な目的を持つ。
- **LOMレベル**では、組織全体の価値観および目標と共存する、特定の目的を持つ。
- **個人レベル**では、全てのポジションの詳細な職務記述書があり、それによって、自分に何が期待されていて、組織全体のミッションとどのような関連があるのかが正確にわかる。

ビジョンとミッション

- **ビジョン**とは、自分たちの組織をどのようにしたいかという夢であり、好ましい組織としての将来のあり方である。
- **ミッション**とは、ビジョンを達成するために、組織として何をする必要があるかを記述したものである。

ビジョンとミッションの主な違いは、ビジョンが好ましい将来のあり方、つまり非営利組織活動の最終的な成果について述べているのに対し、ミッションは、そこに到達するために実際に何をしなければならないかを述べていることである。

ビジョンは、ミッションで要点を述べた活動の**結果として、何を達成したいと望んでいるかということである。ミッションは、**自分たちのビジョンを実現するために、**組織として何を行うかということである。**

JCIのビジョン

「若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること」

このビジョンは、JCIが真の世界的ネットワークになり、JCIの組織がある世界の至る所、全ての国で影響力を持ち、メンバーが存在するというだけではなく、あらゆる場所で積極的な変革の一部になりたいと願っていることを意味する。

JCIはまた、このネットワークのメンバーが若く活動的な市民になって欲しいと願っている。 若い人たちが不満を言ったり、他の人や政府や社会が問題を解決するのを期待するのではなく、率先して地域の問題解決にあたることを望んでいる。

JCIで積極的に活動し、新しいスキルを学ぶことによって、メンバーは課題に挑戦する能力を身に付け、地域の他の活動的な人々と協力して、全員にとってより良い未来を目指して努力すべきである。

JCIのミッション

ミッションは、組織の**運営上の側面**についてより明確に述べているという点でビジョンと異なる。

ミッションは実際の活動であり、適切に遂行されるなら、ビジョンの達成を助けるはずである。組織のミッションとは、組織の存在理由であり、その目的を明確に定義したものである。また組織が何をし、そのためにどのような計画を立てたらよいかを述べたものである。

この理由から、全員が組織内の全てのレベルで、同じミッションを目指して努力しなければならない。

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるための発展・成長の機会を提供すること」

このミッションは全ての LOM が採用し、これに関連するプロジェクトと活動を創り出すことで、それを目指して努力しなければならない。

JCI の役割は、会員である NOM の取組みを指導し、調整することである。同じく NOM は、**LOM** が JCI のミッションを実現できるような成果を達成するよう指導し動機づける。さらに LOM は、**メンバーが積極的な変革を創造するのに必要な力を与える。**

JCI のブランド

JCIは、世界各地でLOMを設立し、明確なコーポレートアイデンティティとロゴを制定してきた。しかしながら、ロゴやイメージだけでは、ブランドの構築に十分ではない。LOMは、組織を特徴づけ、地域の若者にJCIの利点を宣伝するような活動を決定し、実施する必要がある。

JCIがロゴと名前を決定した後、LOMは、アイデンティティを確立し（名前と場所は知られている）、明確な目的を設定し（何を行い、何に集中的に取り組むか）、次にいくつかの活動を決定し、それによってLOMが人々に知られ認知されるようにしなければならない。

JCIの成果

LOMは、自らの組織が何であるか、またそれが何をし、何を標榜しているかについて、地域が正しく認知できるようにすることが重要である。

一般市民がLOMをどのように見、または考えているかは、一般市民がその活動をどのようにとらえるかに影響を与える。LOMは、ミッションと整合するイメージを与えるよう注意しなければならない。

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるための発展・成長の機会を提供すること」

- 活動は、***力を青年に与えるための発展・成長の機会***を提供しなければならない。

  これは、メンバーが新しいスキル、知識または経験を学び発展させる一方で、プロジェクトや活動に取り組まなければならないことを意味する。一個人で、学習なくして行うことができるプロジェクトは、JCI LOMのプロジェクトと見なすことはできない。

- 活動は***力を青年に与え***なければならない。

  これは、新しい知識、経験またはスキルが、その人の人生に何らかの付加価値を与えなければならないことを意味する。活動は、メンバーがより良いメンバーに、より良い市民に、社会のより良い一員に、そしてもちろん、家族のより良い一員になる助けとならなければならない。

- 活動は***より良い変化をもたら***なければならない。

  これは、LOMによって行われる活動では、メンバーの努力、時間、および能力（そして多くの場合、地域の組織または地域の資源）を注ぎ込み、地域にポジティブな影響を与えなければならないことを意味する。活動によって、現在よりも良いものを生み出す必要がある。

LOMは、きちんとした組織化に注力することでJCIのミッションを遂行しなければならないが、地域の若者全員を勧誘することは避けるべきである。

誰もが組織に属すのを好むわけではなく、誰もがJCI 綱領およびJCIミッションと同じ信念を共有できるわけではない。

JCI会員は、以下を信じている若者である。

私たちの価値観– JCI 綱領の宣言文書

私たちのビジョン –若く活動的な市民の優れた世界ネットワークであり続ける

私たちのミッション–積極的変革を創造するのに必要な力を培う機会を、若者に提供する

そして、各人が違いをもたらし、より良い人間となり、積極的な変革を創造することができると知っている。

私たちの成果 – JCIがミッションを**達成**できるように、それぞれの個人会員は次のことに取り組まなくてはならない。

より良い人間、活動的な市民になる– より良い人間、そして活動的な市民になることで、各メンバーはJCIのミッションの**達成**を助けることになるが、最も重要なのは各人が最大の受益者だということである。

地域の積極的な変革–より良い人間や活動的な市民は、自らの周りで確実に積極的な変革を引き起こすだろう。家庭から始まり、友人たちと、クラブで、会社で、そして地域全体でという具合に。
小さな活動を組み合わせることで、地域で著しい影響を生み出すことができる。

JCI のビジョン

「若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること」

JCI のミッション

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるための発展・成長の機会を提供すること」

JCI について

JCI は 100 か国以上の 18～40 歳の行動的な若い市民による、会員制の非営利団体であり、それぞれの地域で積極的な変革を引き起こすために尽力している。各 JCI メンバーは、持続的で積極的な変革を引き起こすには、自分自身と自らを取り巻く世界を改善しなければならないという信念を共有する。JCI メンバーは問題を見極め、影響力のある、目標に合った解決策を生み出すことで、それぞれの地域に責任を持つ。

一般社団法人　尾道青年会議所　事業計画（案）予算（案）

審議　事項

委員会名：総務広報委員会
委員長名：鍋島　巧

（1）議案名

卒業例会行事　事業計画（案）予算（案）に関する件

（2）事業名

卒業例会　テーマ　「卒業～Ａｃｔｉｖｅ　Ｃｉｔｉｚｅｎｓよ　いつまでも～」

（3）事業実施に至る背景

尾道青年会議所では、毎年活動の締めくくりである１２月例会を「卒業例会」として、卒業されるメンバーの門出を祝う場としています。本年度は、１１名のメンバーがこの尾道青年会議所を卒業されることから、ご卒業される皆様に敬意を表し、また現役会員、ＯＢ・特別会員の皆様と共に盛大に祝福するため、卒業生の心にいつまでも残る「卒業例会」を開催する必要があります。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）

ｂ．（対内）卒業生の皆様が尾道青年会議所に入会してからこれまでＡｃｔｉｖｅ　Ｃｉｔｉｚｅｎｓとして活動してきた想い出を振り返り、卒業生への感謝の気持ちを表わす事により、Ａｃｔｉｖｅ　Ｃｉｔｉｚｅｎｓとしての思い出を現役メンバーと共有し、卒業生が積み重ねてきた想いを継承する事を目的とします。

（5）事業概要

ａ．実施日時　２０１８年１２月１７日（月）

例会セレモニー　　１８：００～１８：３０
卒業式　　１８：３０～２０：３０
懇親会　　２０：４０～２２：００

ｂ．場　　所　尾道国際ホテル

ｃ．予算総額　￥７８０，０００（詳細は別紙予算書）

ｄ．参加人員　内部　８４名　　外部　６０名　　計　１４４名
（内部内訳　：　現役会員　７３名　卒業生　１１名）
（外部内訳　：　特別会員　３３名　ＯＢ会員　２７名）

ｅ．動員計画

ｆ．外部協力者

ｇ．実施組織・推進リーダー　　総務広報委員会　委員　山本　圭介
委員　三谷　彰紀

ｈ．実施手順・プログラム

２０１８年１０月３０日（火）第１０回正副理事長会議　協議
２０１８年１１月　９日（金）第１１回理事会　　協議
２０１８年１１月２７日（火）第１１回正副理事長会議　審議
２０１８年１２月　６日（木）第１２回理事会　　審議

２０１８年１２月１７日（月）１２月例会　　実施

（６）事業内容（目的達成のための手法説明）

本例会は、①オープニング映像、②卒業生紹介・送辞・答辞（代表者挨拶を含む）、③エンディング映像の３つの構成とします。①については、卒業生を紹介し、これから卒業例会が始まるという期待感を醸成する演出を行います。②は、卒業生の各自事前にリクエスト曲をヒアリングし、入会から今日に至るまでの活動の軌跡が振り返られるような映像を用意します。送辞・答辞については、例年同様の流れをくみ取り、送る側と送られる側の想いを伝えます。③では、本年度の尾道青年会議所の活動の軌跡を振り返ります。さらに最後に卒業生お一人ずつ、ゆかりの深い諸先輩方より、一言ずつお祝いのお言葉を事前に頂戴し、紹介します。また、卒業の記念品として卒業生の皆様それぞれの写真データをＤＶＤに記録し贈呈します。ＤＶＤケースには各委員会ごとで寄せ書きをして頂きます。

（７）過去の検証・本年の工夫と期待される効果

本年度１１名の卒業生をお見送りするに当たり、これまで確立されてきた厳粛な卒業式の流れを踏襲し、懇親会の時間を確保するため、開始時刻を１８：００とさせて頂きます。

また、卒業例会の準備段階で収集した卒業生の写真をＤＶＤに収め、卒業後も「Ａｃｔｉｖｅ Ｃｉｔｉｚｅｎｓ」の想い出としていつまでも振り返られるようにします。

（８）審議のポイント

内容・予算について

（９）会議での意見とその対応

意見）食事代が５０００円となっていますが、登録料をあげて料理のランクを上げることはできないのでしょうか

対応）会場側と交渉の結果、５０００円で料理について配慮いただいています。

意見）現役会員の代表送辞は例年理事長ですが、本年度はどなたがされますか。

対応）本年度は山北副理事長による代表送辞とさせていただきます。

意見）卒業生紹介映像はどのようなものになるのでしょうか。

対応）紹介映像は、卒業生が入会されてから今までの活動の様子が分かる写真とＬＯＭ歴、卒業生スピーチ等の中での熱いメッセージを紹介します。

(10) 他委員会への依頼事項等

卒業生の皆様にとっては、現役会員として最後の例会となります。卒業される皆様を盛大に送り出したいと思いますので、現役メンバーの皆様に出席いただきますよう宜しくお願いします。

(11) 添付資料

事業収支予算書（案）
収支予算明細書（案）
卒業例会概要（案）
タイムスケジュール（案）
卒業例会次第（案）
懇親会次第（案）

卒業例会　会場レイアウト（案）
懇親会　会場レイアウト（参考資料）
看板レイアウト（案）
看板見積(参考資料)
見積書(懇親会・スクリーン)(参考資料)
送辞用紙見積(参考資料)

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

事業収支予算書（案）

事業名　2月例会 テーマ「卒業～Active Citizensよ いつまでも」

収入の部

大科目	中科目	小科目	細目	前年度予算	本年度予算	差 異	備 考
事業収入	事業費繰入収入	事業費繰入収入		60,000	60,000	0	
	事業費繰入収入	事業予備費繰入収入		252,420	245,592	6,828	
	登録料収入	登録料収入		497,580	474,408	23,172	
	販売収入					0	
	広告料収入					0	
	負担金収入					0	
	雑収入					0	
補助金等収入	国庫補助金収入					0	
	地方公共団体補助金収入					0	
	民間補助金収入					0	
	国庫助成金収入					0	
	地方公共団体助成金収入					0	
	民間助成金収入					0	
寄付金収入	寄付金収入					0	
	募金収入					0	
収入合計				810,000	780,000	30,000	

支出の部

大科目	中科目	小科目	細目	前年度予算	本年度予算	差 異	備 考
事業費支出	事業	会場設営費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出	23,200	23,200	0	(有)メディアジャンクション・尾道国際ホテル
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
		小計		23,200	23,200	0	
		企画演出費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			企画費支出			0	
			演出費支出	14,958	16,416	−1,458	花のよしはら・紙誠㈱
			旅費交通費支出			0	
		小計		14,958	16,416	−1,458	
		本部団関係費支出	人件費支出			0	
			食事代支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			通信費支出			0	
			運送費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			渉外費支出			0	
		小計		0	0	0	
		講師関係費支出	食事代支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
			保険料支出			0	
			諸謝金支出			0	
			会合費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		広報費支出	運営費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			通信費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
			PR費支出			0	
		小計		0	0	0	
		資料作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出	11,694	3,950	7,744	セブンイレブン・エディオン尾道店
		小計		11,694	3,950	7,744	
		報告書作成費支出	通信費支出			0	
			資料費支出			0	
			消耗品費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			作成費支出			0	
		小計		0	0	0	
		懇親会費支出	人件費支出			0	
			会場費支出			0	
			設営費支出			0	
			旅費交通費支出			0	
			運送費支出			0	
			レンタル料支出			0	
			保険料支出			0	
			飲食費支出	750,000	720,000	30,000	尾道国際ホテル
			アトラクション費支出			0	
		小計		750,000	720,000	30,000	
		渉外費支出	役員渉外費支出			0	
			記念品代支出			0	
		小計		0	0	0	
		旅費交通費支出	旅費支出			0	
			交通費支出			0	
			宿泊費支出			0	
		小計		0	0	0	
		参加記念品代支出			0	0	
		保険料支出			0	0	
		通信費支出			0	0	
		販売物品仕入支出			0	0	
		雑費支出			0	0	
	事業予備費支出			10,148	16,434	−6,286	
支出合計				810,000	780,000	30,000	

収支予算明細書（案）

事業名 12月例会　テーマ「卒業～Active　Citizensよ　いつまでも～」

＜収入明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	備考
事業費繰入収入	事業費繰入収入			60,000	
			正会員@2，138×84名	179,592	例会食事代を繰入
			特別会員@2，000×33名	66,000	例会食事代を繰入
懇親会収入	登録料		正会員@2，862×84名	240,408	
			特別会員@3，000×33名	99,000	
			OB会員@5，000×27名	135,000	
合　計				780,000	

＜支出明細書＞

中　科　目	小　科　目	細目	摘　　要	予算額	備考
事業費支出	会場設営費支出	設営費支出	看板代	7,000	（有）ディアジャンクション
		レンタル料支出	スクリーン大（縦2.4m×横2.7m	16,200	尾道国際ホテル
	小　計			23,200	
	企画演出費支出	演出費支出	コサージュ@1，080×11	11,880	花のよしはら
			送辞用紙@378×12	4,536	紙誠（株）
	小　計			16,416	
	資料作成費支出	作成費支出	iTunesカード	3,000	セブンイレブン（卒業生紹介用曲）
			DVD トールケース（10個入り）	702	エディオン尾道店
			DVD トールケース（3個入り）	248	エディオン尾道店
	小　計			3,950	
	懇親会費支出	飲食費支出	正会員@5，000×84名	420,000	
			特別会員@5，000×33名	165,000	
			OB会員@5，000×27名	135,000	
	小　計			720,000	
	小　計			0	
	参加記念品代支出				
	保　険　料　支　出				
	通　信　費　支　出				
	販売物品仕入支出				
	雑　　費　　支　　出				
事業予備費支出				16,434	
合　計				780,000	

２０１８年度　一般社団法人　尾道青年会議所　１２月例会概要　（案）

＜テーマ＞

「卒業～Active Citizens よ　いつまでも～」

日時　２０１８年１２月１７日（月）
１８：３０～２０：３０
場所　尾道国際ホテル

＜概要＞

①オープニング映像

卒業生を一人一人紹介し、卒業式の雰囲気を演出いたします。

②卒業生紹介・送辞・答辞

各卒業生の皆様が登壇される前に映像を流します。内容は、入会から今日に至るまでのご活躍の様子を紹介します。

卒業生一人一人持ち時間の中で送辞と答辞を行い、送る言葉を送ります。

③代表送辞と代表答辞

現役メンバーから代表１名、卒業生から代表１名が送辞と答辞を行います。

④エンディング映像

２０１８年度の締めくくりとして、本年度の事業を振り返り、事業を総括し想い出します。最後に、卒業生お一人ずつに対して、同青年会議所でゆかりのある諸先輩方より、一言ずつお祝いのお言葉を事前に頂戴し、紹介させて頂きます。

２０１８年度　一般社団法人　尾道青年会議所　卒業式タイムスケジュール（案）

１．開会		１８：３０
２．卒業生入場	（１分）	１８：３０
３．オープニング（映像）	（２分）	１８：３１
４．委員長挨拶	（１分）	１８：３３
５．卒業生紹介 送辞・花束贈呈・答辞	（９９分）	１８：３４

・紹介 PP　１分
・登壇・降壇　１分（各０．５分ずつ）
・送辞・答辞 各　６分（各３．０分ずつ）
・花束　０．５分

計９３．５分（８．５分／人×１１人）
・予備　５．５分（０．５分／人×１１人）

６．現役会員代表送辞	（４分）	２０：１３

・卒業生登壇（１分）、代表送辞（３分）

７．卒業生代表答辞	（４分）	２０：１７

・代表答辞（３分）、卒業生降壇（１分）

８．エンディング映像	（８分）	２０：２１

・２０１８年度事業振り返り

９．卒業生退場	（１分）	２０：２９
１０．閉会		２０：３０

２０１８年度 一般社団法人 尾道青年会議所
卒業例会 次第（案）

日時：２０１８年 １２月１７日(月)
１８：３０～２０：３０
場所：尾道国際ホテル２階 慶安の間

卒業例会

１．	開会（入場）	（１分）	１８：３０
２．	オープニング（映像）	（２分）	１８：３１
３．	委員長挨拶	（１分）	１８：３３
４．	卒業生紹介 送辞・花束贈呈・答辞	（９９分）	１８：３４
５．	現役会員代表送辞	（４分）	２０：１３
６．	卒業生代表答辞	（４分）	２０：１７
７．	エンディング映像	（８分）	２０：２１
８．	卒業生退場	（１分）	２０：２９
９．	閉会		２０：３０

卒業例会終了後、懇親会を行います。

２０１８年度 一般社団法人 尾道青年会議所

卒業例会 懇親会 次第（案）

日時：２０１８年 １２月１７日(月)
２０：４０ ～ ２２：００
場所：尾道国際ホテル２階 瑞雲の間

１． 懇親会開会 ２０：４０

２． 理事長挨拶

３． シニアクラブ会長ご挨拶

４． 乾杯

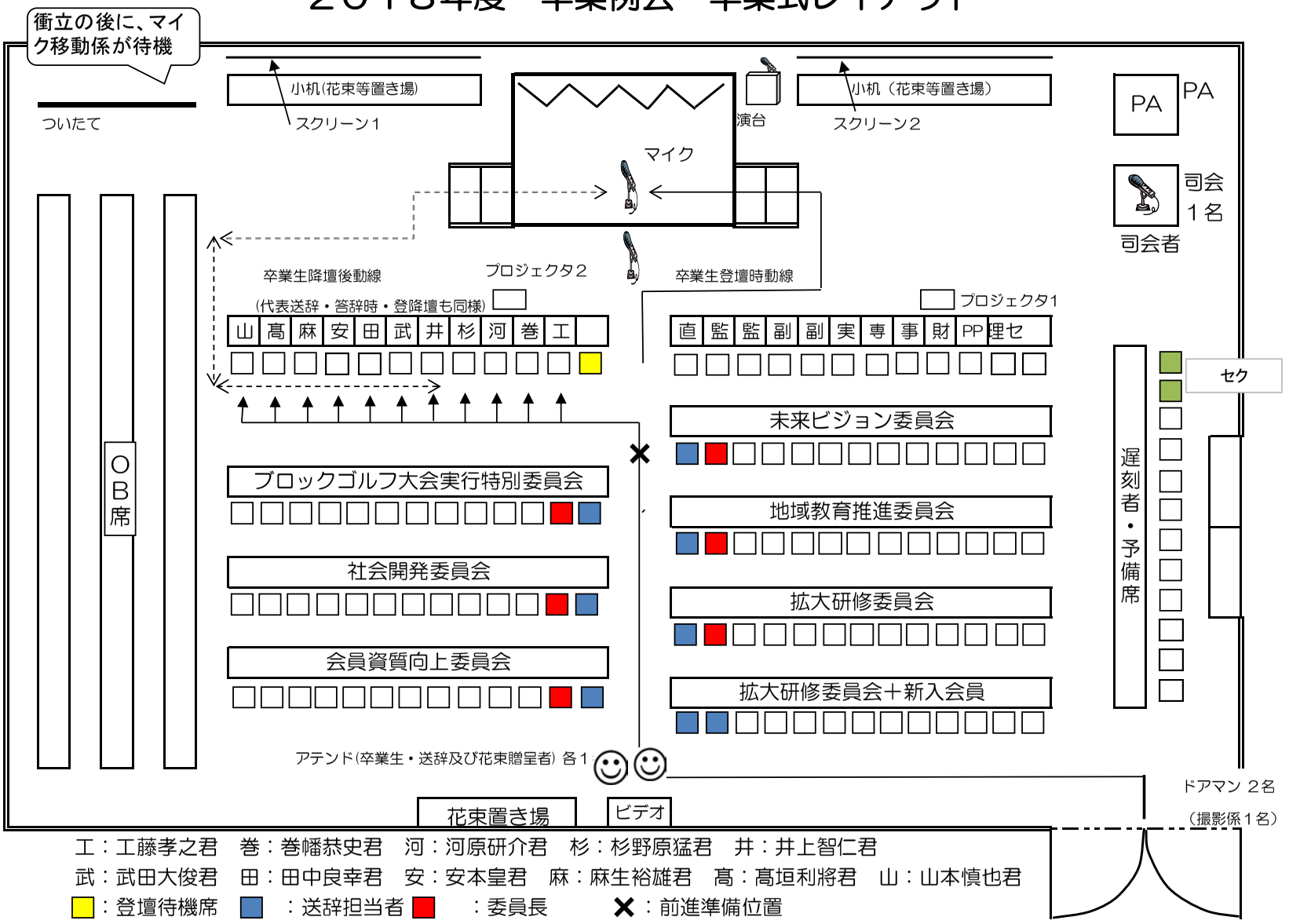
５． ご歓談

６． 若い我ら合唱

７． 中締め挨拶

８． 懇親会閉会 ２２：００

２０１８年度　卒業例会　卒業式レイアウト



工：工藤孝之君　巻：巻幡恭史君　河：河原研介君　杉：杉野原猛君　井：井上智仁君

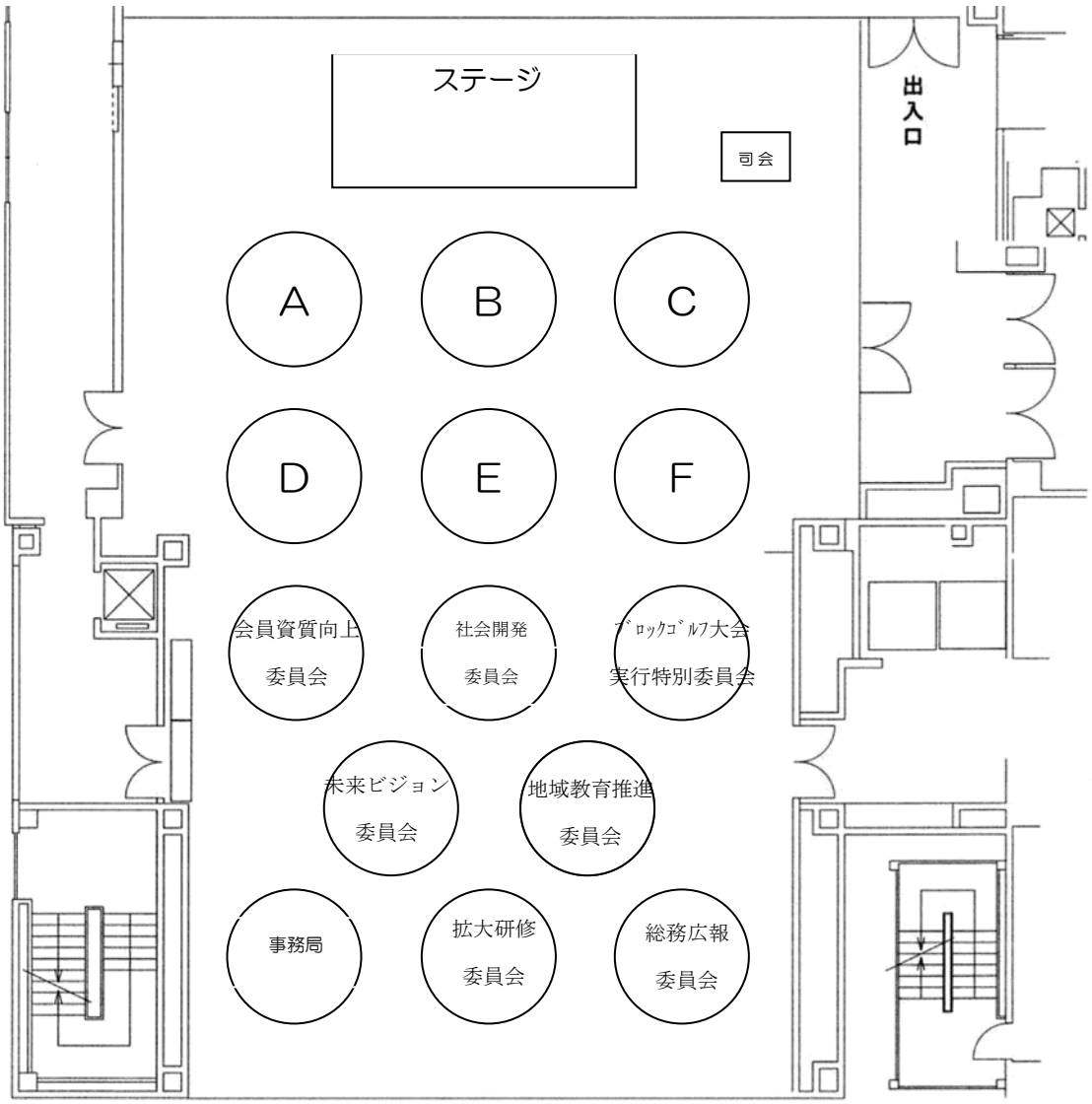
武：武田大俊君　田：田中良幸君　安：安本皇君　麻：麻生裕雄君　髙：髙垣利將君　山：山本慎也君

：登壇待機席　　：送辞担当者　　：委員長　　×：前進準備位置

（送辞者）数字は送辞の順番

花束は各委員長から。

２０１８年度 一般社団法人尾道青年会議所 卒業例会 懇親会 会場図（参考資料）



発 注 書

(有)メディアジャンクション　御中

２０１８年度　１２月例会看板を下記フォームにて

１２月１０日までに製作お願い致します。

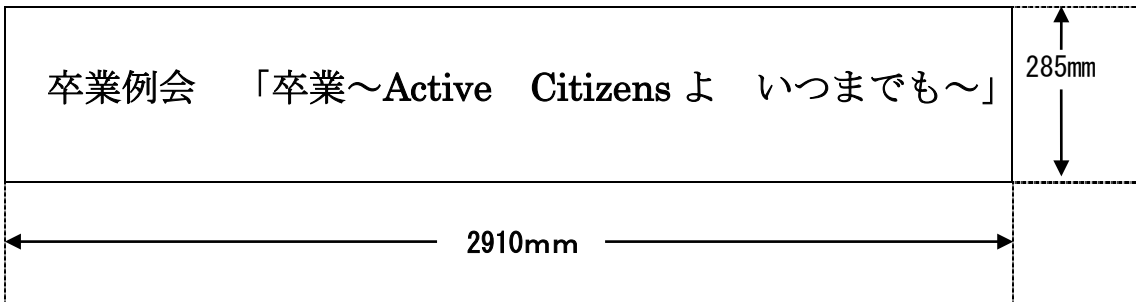
一般社団法人　尾道青年会議所　総務広報委員会

担当者　鍋島　巧

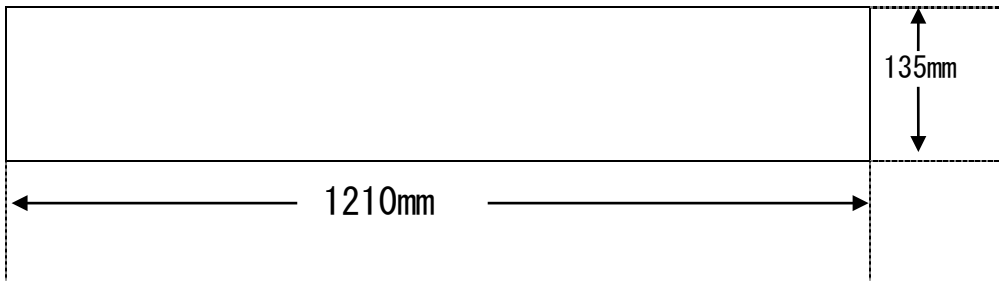
連絡先　０９０－８２４７－７１１１

製作寸法　及び　レイアウト

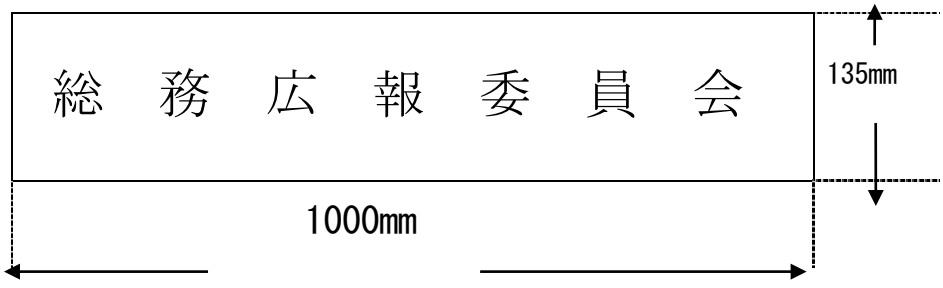
テーマ



予備欄



委 員 会 名



2018年 10月 9日

御 見 積 書

No. 5597

一般社団法人尾道青年会議所 御中

12月例会看板制作（2018年）

下記の通り御見積申し上げます。

納入期日 年 月 日
納入場所 別途ご相談
取引方法 別途ご相談の上
有効期限 年 月 日

有限会社メディアジャンクション
〒722-0017
広島県尾道市門田町23-30
TEL:0848-21-2201 FAX:0848-21-2202
info@mediajunction.jp
http://www.mediajunction.jp/

御 見 積 金 額	¥7,000

内 容 ・ 仕 様	数 量	単位	単 価	金 額
12月例会看板制作（2018年）	1.00	式	7,000	7,000
合 計				7,000

1頁

ご宴会お見積書

一般社団法人尾道青年会議所　御中

平成30年10月31日

いつも格別のお引立てを賜り厚くお礼申し上げます。
この度、ご用命賜りました件につきまして
下記のとおりお見積り申し上げます。

尾道国際ホテル
支配人　寺岡　靖治
担当者　西原　勲一
TEL0848-25-5931
FAX0848-25-5930

宴会名		一般社団法人尾道青年会議所卒業例会　様御席
開催日	例会	平成30年12月17日（月）
ご会場名	例会	2階慶安の間　　懇親会　　2階瑞雲の間
ご形式	例会	
お客様数	例会	144名様

項目	単価	数量	金額
小計(A)			0
サービス料(B)　(Aの10%)			0
会場内付帯設備			
小計(C)			
お料理・お飲物　卓盛料理	5,000	144	720,000
例会会場使用料　指定ドリンク			
(サービス料込　※ビール、焼酎、ウィスキー、ソフトドリンク			
(税込み)			
小計(D)			720,000

消費税(A＋B＋Cの8%)

総　合　計　720,000　　お一人様平均　5,000

お見積書についてご不明な点がございましたら、ご遠慮なく担当者におたずねくださいませ。

ご宴会お見積書

一般社団法人尾道青年会議所　御中

平成30年10月31日

いつも格別のお引立てを賜り厚くお礼申し上げます。
この度、ご用命賜りました件につきまして
下記のとおりお見積り申し上げます。

尾道国際ホテル
支配人　寺岡　靖治
担当者　西原　勲一
TEL0848-25-5931
FAX0848-25-5930

宴会名		一般社団法人尾道青年会議所卒業例会　様御席
開催日	例会	平成30年12月17日（月）
ご会場名	例会	2階慶安の間　　懇親会　2階瑞雲の間
ご形式	例会	
お客様数	例会	144名様

項目	単価	数量	金額
小計(A)			0
サービス料(B)　(Aの10%)			0
会場内付帯設備　スクリーン	15,000	1	15,000
小計(C)			15,000
小計(D)			

消費税(A＋B＋Cの8%)	1,200		
総　合　計	16,200	お一人様平均	113

お見積書についてご不明な点がございましたら、ご遠慮なく担当者におたずねくださいませ。

御 見 積 書

2018年9月25日

一般社団法人 尾道青年会議所　**様**

紙誠株式会社
〒722-0051　広島県尾道市東尾道11-13
TEL (0848)20-2131　FAX (0848)20-2135

総合計　　**4,536**

承　認	査　閲	担　当

担当：　山 北

納入場所	お客様指定場所
納入期日	ご相談
支払条件	
見積有効	御見積後3ヵ月

No	商品名	単価	数量	金額
1	式辞用紙 大 罫入り	350	12	4,200
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
			小　計	4,200
			消費税	336
			合　計	4,536

備　考

ENGINE

～我々の価値を高めよう～

２０１９年度理事長　山北 真也

山なみあり
街なみあり
島なみあり

中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した歴史に、住み暮らす人々の温かみや人情が加わった尾道は、私たちの誇りです。
この尾道を活動の拠点とすることの幸せに感謝しながら、このまちに恩返しするために。
まちづくりの ENGINE となる活動を始めよう。

個を高め ENGINE となり得る人材になるために学ぶ

我々のあるべき姿とは何なのか。この大きく深い課題は個々がその生涯をかけて考え、模索していく事であり、すぐに結論が出る事はありません。同じ志を持つ我々が、個々のあるべき姿の理想像を語りあい、いろいろな道筋を試行錯誤する。この過程が大切であり、取り組むべき重要事項であると考えます。本年度は、そういった今後の我々の人生のターニングポイントとなり得る場を作って行きたいと考えます。市民として、今後の地域経済を担う青年経済人として、あらゆる立ち位置でのあるべき姿を共に考え学んで参りましょう。

尾道の ENGINE となるまちづくり事業を発信したい

我がまち尾道には、冒頭でも述べたように、魅力ある財産が多くあり、県内外から多くの人々が来尾されています。それは先人たちが築き上げてこられた努力の賜物に他なりません。では今、我々がすべきことは何なのでしょうか。それは今ある素晴らしい財産を受け継ぎ、守り、育てていくこと。そして、今の時代に必要な要素を加え、更なる大きな魅力として発信することであると考えます。

自然災害大国である日本では、昨今の災害発生状況から鑑みても防災に関する取り組みは避けては通れません。尾道青年会議所としても防災に関する取り組みを始めて 3 年目を迎えます。これまで培ってきた知識をもとに、本年度は市民とともに防災意識を向上する事ができるような取り組みを展開して行きたいと思います。

次代の ENGINE となる宝を育てる

子どもたちは未来への希望の光です。ですが、未来を託す子どもたちに与えられている今の環境は、その昔我々が育ってきたものとはどこか違います。もちろんその時代によって環境は変わってきますし、現状が間違っているとも思いません。ただ、我々の経験してきた古き良き時代の環境が、今の子どもたちに不足しているピースなのではないかと考えます。これからの未来を託す人材であるからこそ、いろいろな経験を積むことができる環境を我々の手で整えて参りましょう。

大きな ENGINE となるためには

青年会議所運動の賛同者を拡大し続けることは、組織の根幹であり、メンバー一丸となって取り組まなければならない最も重要な課題の一つです。我々のまちをより良くしていくためには、市民一人ひとりの意識変革が必要であり、その推進役である我々JC メンバーが一人でも多く青年会議所運動に携わっていくことが重要です。我々が、地域により価値のある運動を展開し、その過程で同じ志と使命感を持つ者同士がお互いに強く影響しあうことで切磋琢磨を続け、成長していく。そんな素晴らしい組織であることに誇りをもちメンバー全員での拡大の機運を高め、共に活動してくれる同志を迎え入れましょう。

また、青年会議所運動、そして JC の魅力をより多くの方々にどのように伝え、どのように事業への参加を促していくのか。これはここ数年抱えてきた大きな課題でもあります。我々が掲げる理念を実現していくために、対外発信力を強化し、社会的認知度を向上させ、我々の地域における存在価値を高めて行きたいと思います。

上述してきた活動を進めて行くには、尾道青年会議所が活気溢れる組織でなければなりません。改めてメンバー間の絆を深め、サロンの様な組織ではなく、いろんな場面でメンバー同士が切磋琢磨できるような組織を目指して行きたい。その為の土台となるような活動を一年間取り組んで参りましょう。

結びに

我々が敬愛する尾道青年会議所の先輩諸兄が取り組んでこられた活動が、これまでの尾道の ENGINE となってきました。我々もこれからの尾道の ENGINE となり得る活動をして行きたい。改めてその立ち位置を知り、求められている役割を果たしていく。我々尾道青年会議所でしか考えられないと言わしめる価値を示して参りましょう。

「縁心力」

２０１９年度　組織活性化推進室
副理事長　美ノ上　仁孝

「袖振り合うも他生の縁」という古いことわざがある通り、人と人とのつながりほど不思議なものはありません。

人と人との出会いに意味があるとすれば、それは偶然ではなく必然なのではないでしょうか。私たちは誰かとつながることで、何かに気づきそして成長することを繰り返していきます。そこに互いの尊敬があり、敬う心が存在し、自他相愛の精神が生まれることではじめて、人は自分一人では到底成し得ないことにも、挑戦することができるのではないでしょうか。

メンバー同士が切磋琢磨し、いままで以上に相手のことを深く知り、そして自分の想いをしっかりと伝えることが重要になります。そのつながりはさらに強固なものとなり、組織として、より大きな力を発揮することができるでしょう。
まずは私たち自身がしっかりと絆を深め、そしてその絆をさらに広げて行くことで、地域に根付いた、なくてはならない能動的な組織にしていきましょう。

「チャンスメーカー」

２０１９年度　政策室
副理事長　安楽城　大作

私たちの活動に求められることは、まちの発展の一助となる、より多くのチャンスを生み出すことだと考える。チャンスを生み出すためには、機に応じて柔軟な姿勢で臨まなければならない。

まちの魅力の創造は一夜にしてならず。先人たちから脈々と継承され、時に時代に合わせた変化を伴いながら紡ぎ出された尾道の文化。今いる私たちが未来に向けてより魅力あるものにするために、まちの内外含めたより多くの方とのコミュニケーションを通してニーズを把握し、新たなかたちを模索し、次代に継承していく。そのすべての活動に、粘り強い姿勢で取り組む必要がある。

一方、教育という視点で私たちの活動に求められるのはよりアクティブな姿勢だろう。限りない可能性に満ちた子供たちが、その可能性を実にするべく、限りある時間の中でより多くの経験を積む。そのために私たち大人が様々なチャンスを幅広く、アクティブに発信していく必要がある。幸い尾道ＪＣには先輩たちが築きあげてくれた様々な教育事業の形がある。それを今一度見つめ直し、より広い形で、様々な可能性にアプローチできる活動を模索していく。

私たちを育んでくれた尾道が、未来に向けて、今にも増して明るく豊かなまちになるために。粘り強く出塁し、走ってチャンスを広げる。そんなチャンスメーカー的な役割を全うする活動を行っていきたい。

「思いやる心」

２０１９年度　社会開発室
副理事長　中谷　純也

先人たちが、築きあげて来た、この尾道を受け継ぎ、未来へと、どの様に渡していくのか、我々は深く考えなければなりません。
ただ過去からをそのまま伝えていけばよいので無く、現代にあった変化も必要です。

青年会議所とは、本来どの様な姿勢、行動が必要なのか、また現代にあった青年会議所活動を、今一度考え、行動し、そして、我々の魅力を地域に発信をして、我々青年会議所が地域の方々に必要とされる、そんな団体であるべきだと考えます。

またこの時代に同じ青年会議所メンバーとして、一緒に行動するのであれば、色々なメンバーと話をし、思いを共有しながら、一丸となって活動を進める事により、より強固な青年会議所になるのです。

自らが考え行動を起こし、相手の事を考えながら活動をしよう。

誰かがやっているから、それに従えばいいと言う事でなく、自らの意思を持って行動しよう。
一人一人がＥＮＧＩＮＥとなり、活動をし、大きな波を起こそう。

「存在する意義」

２０１９年度　ＪＣ運動推進室
副理事長　川﨑　耕平

尾道青年会議所における、存在意義とはなんなのでしょうか？

我々を ENGINE として例えるならば、その大きな動力を動かすエネルギーとなるのは、地域においてなくてはならない存在意義や価値であり、それには共感と賛同、そして我々の運動への参画だと思います。

そのためには、
我々が地域や賛同者から何をして貰えるかを問うのではなく、我々が地域や賛同者に何をすることが出来るかを問うべきであり、それはＪＣ運動を推進するなかでは当たり前のことだと誰もが認識しているはずでしょう。
ただ、そんな当たり前なことを“個”ではなく“組織”として、とことんやり続けること、発信し続けることは、一見容易に思われますが、それは大変困難なことであります。

６３年前、諸先輩方が発足された尾道青年会議所には、存在する意義や理由があり、その価値が地域に認められ続け、今日の我々があるのだと思います。

ＪＣ宣言文の中にある、“混沌という未知の可能性を切り拓き”、今こそがまさにその時であります。答えはどこにも示されてはおりません。また時代の変化は我々の意思に関係なく、どんどん進んで行きます。
そんなパラダイムシフトの時代を生き抜くためにも、今一度我々が存在する意義を確認し合い、変えるもの、変えないものを意識していきましょう。

いつの時代も我々の情熱が、ひと、まちを動かしてきています。特効薬はありません。王道を行きましょう。一途に一心に地域のため、仲間のために私達が課題を自ら設定し解決策を考えましょう。

「熱意を持って」

２０１９年度　専務理事
今岡 正英

出会いに恵まれ、思いを分かち合う者同士となった私たちは、青年会議所という団体を通じて、より多様な活動を行う日々を送っています。生活の中のほんの一部でありながら、濃く深く広い活動を行うことができるのが青年会議所だと考えます。

私たちは青年会議所に何年、何十年と所属していながら全く同じ年を送ったことはありません。一年一年人が変わり、組織が変わり、考え方でさえも変わっていきます。本当に不思議な世界であると言えます。底なしに深く、限りが無いほどに広い。いくらでも考え方があり、いくらでもやり方があります。

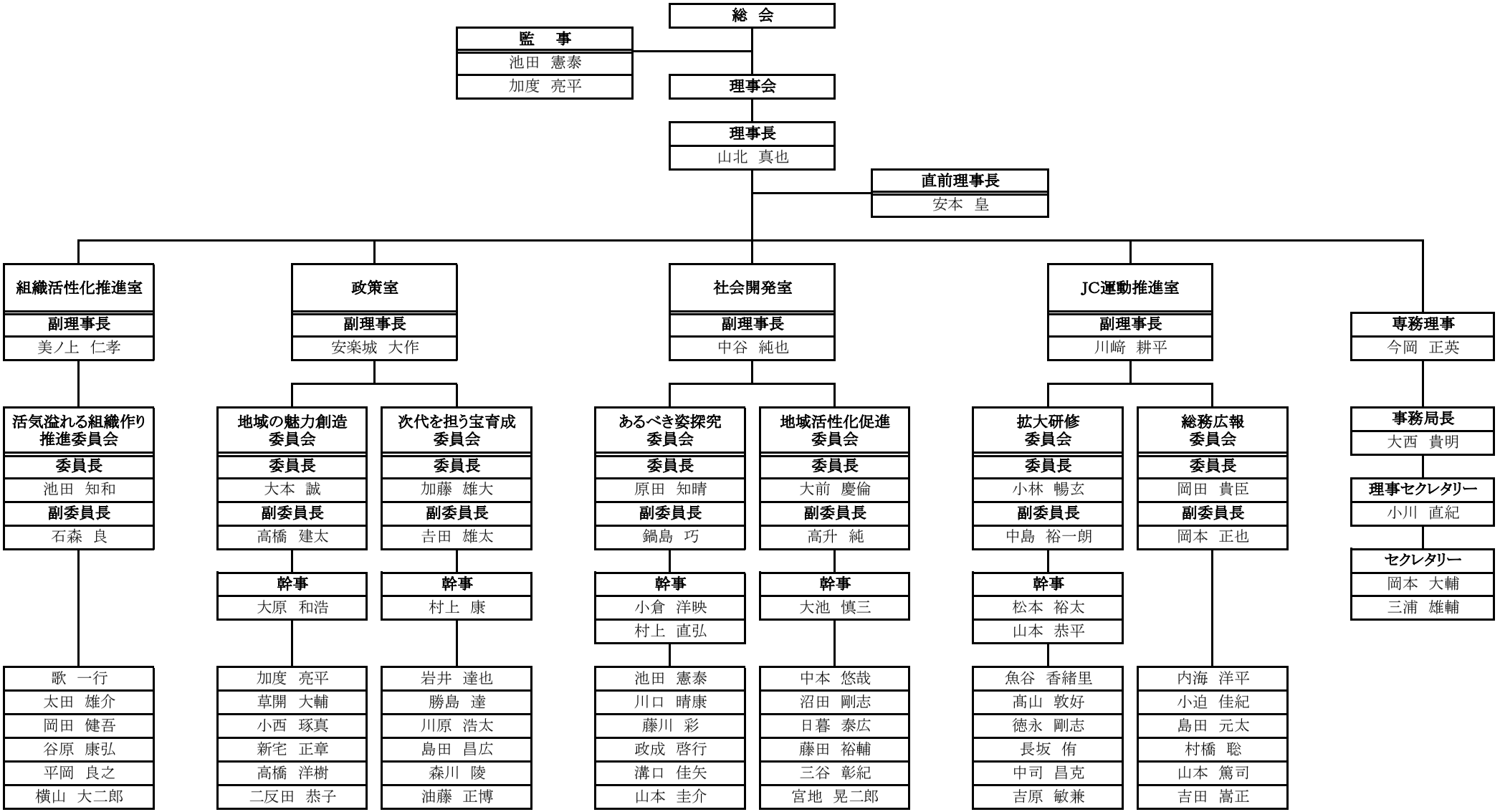
もう考えつくされたと思う事業でさえ、次々と新しくなり、次々と変わっていきます。そして進歩していきます。少し考え方が変われば新しい発想が生まれてくるのです。

ただその中で大切なのは「熱意」です。人に熱意がなかったら、その事業の発する魅力や神秘さは消え失せてしまいます。何としてもやり遂げたい、どうしても成功したい、この熱意が人を引き寄せ、成功への道筋を作り上げます。成功すればいいなぁ・・そう考えている人からは成功への道筋は見えてきません。

知識も大事、才能も大事。しかしそれが無ければ何もできないというものではありません。たとえ知識が乏しく才能が劣っていようと、誠実な熱意に満ち溢れていたならばそこから必ず良いものが生まれてくるのです。何よりも必要なのは熱意です。

ENGINE は熱くなってこそ本当の力を発揮します。熱意を持って活動して参りましょう！

2019年度 一般社団法人 尾道青年会議所　委員会構成図



組織活性化推進室　活気溢れる組織作り推進委員会

委 員 長　池田　知和
副委員長　石森　良

テーマ「一所懸命」

人は「一所懸命」になる事で、逆境に悩み、挫折に苦しみを覚えます。

そして、誰しもが悩み苦しむことに幸福を感じる事はありません。

しかし、逆境や挫折、様々な苦難を乗り越えた時、優しさ、強さ、自信を得ることができ、人として成長し幸福を感じることができるのではないでしょうか。

そして、私たちが共に成長していきたいと考え、率先して行動し、様々な苦難を乗り越えた時に得られるものは計り知れないものがあるに違いありません。

尾道青年会議所とは、「一所懸命」に日々活動している人達の集まりです。
尾道青年会議所で出会えた縁を大切に、共に切磋琢磨し、「一所懸命」邁進しましょう。

その「一所懸命」こそが、尾道をより良い町に変えて行きます。

共にこの尾道で、尾道の為に。

事　業　計　画	時　　期	予　　算
活気溢れる組織作り事業の調査・研究・実践	通年	４００，０００
例会行事	３月	６０，０００
会員交流例会	７月	１００，０００
クリスマス会	１２月	２００，０００
会員拡大の実践	通年	
合　　計		７６０，０００

政策室　地域の魅力創造委員会

委 員 長　大本　誠
副委員長　高橋　建太

テーマ「絶好機」

私たちが愛する、魅力あふれるまち、尾道。

尾道の魅力は一言では語りつくせません。

２０１５年日本遺産認定、２０１８年尾道市制施行１２０周年、２０１９年尾道港開港８５０周年。

今が尾道を魅せる絶好機。

私たちはもう一度、先人たちが築きあげてこられた財産を見つめなおし、時代に合った尾道の魅力を内外に発信する時機が来ています。

私たち尾道青年会議所ではないと出来ないことをしよう。もっと、まちにでて人々の声を聞こう。

チャンスを活かすも、活かさないも自分達次第。

この１年様々なチャンスとご縁に感謝をして、尾道の新たな魅力を発信する原動力となろう。

事　業　計　画	時　　期	予　　算
尾道の財産を活かしたまちづくり事業の調査・研究・実践	通年	３００，０００
例会行事	４月	６０，０００
夏期講習	８月	３００，０００
会員拡大の実践	通年	
合　　計		６６０，０００

政策室　次代を担う宝育成委員会

委 員 長　加藤　雄大
副委員長　吉田　雄太

テーマ「変わらないもの」

子どもたちが暮らすこの現代社会は、私たちが幼少期を過ごした時代から様々なことが大きく変化してきた。物も情報も手を伸ばせばいくらでも手に入り、何をするにも困らない時代になった。

一方で、物や情報が溢れる時代だからこそ、大人も子どもも何を選択し、何を自分の中に取り入れるのかを真剣に考えることが今こそ必要だと考える。

その中で道標となるのは、私たち自身の経験ではないだろうか。様々な体験を通じて、子どもたちと共に考え、学び、成長することこそが共育（きょういく）だと信じ、私たちが今日に至る道のりの中で得た学びや喜びを子どもたちに伝えたい。

時代の変化や環境の違いのせいにして、私たち大人が伝えることを諦めてしまってはいけない。次代を担う宝たちと共に様々な経験をすることで、いつの時代も変わらないものを伝え、受け継いでいく活動を行っていきたい。

事　業　計　画	時　　期	予　　算
次代を担う宝育成事業の調査・研究・実践	通年	４００，０００
家族会	４月	１００，０００
例会行事	２月	６０，０００
例会行事	１１月	６０，０００
会員拡大の実践	通年	
合　　計		６２０，０００

社会開発室　あるべき姿探求委員会

委 員 長　原田　知晴
副委員長　鍋島　巧

テーマ「現状維持は下降線」

現状を変えることによって「何かを失うかもしれない」という不安が、「何かを得られるかもしれない」という期待よりも上まわる事によって、人は現状を維持したがる。

この心理作用は、尾道青年会議所にもあるのではないか。
「これでいいや」「これまでの慣例がある」「例年通りにやっておこう」などの考えが窺えることがある。
これは、前例を緻密に精査していれば、前例の問題点・改善点が出てくるのだから、そこから目を背けているだけに他ならない。

青年会議所活動において、失敗は有益だと考える。
それは、現状維持の心理を打開した結果だからだ。これが、尾道青年会議所にあるべき姿だと思う。
我々は、怯まず、尾道の先頭に立って現状維持のバイアスを打開していこう。

それが、尾道青年会議所の根幹で、ＥＮＧＩＮＥとなっていくはずだ。

事　業　計　画	時　　期	予　　算
あるべき姿探求事業の調査・研究・実践	通年	３００，０００
新年宴会	１月	２００，０００
例会行事	１０月	６０，０００
しまなみ３ＪＣへの参画	通年	
会員拡大の実践	通年	
合　　計		５６０，０００

社会開発室　地域活性化促進委員会

委 員 長　大前　慶倫
副委員長　高升　純

テーマ「地域と共に」

我々は、諸先輩方の想いを受け継ぎ、明るい豊かな社会の実現を目指し日々活動をしています。温故知新の心を忘れず活動し、次代に引き継がなければなりません。

地域を活性化させる鍵は、若い世代にあると考えます。尾道を盛り上げる為には、尾道青年会議所の活性化も重要です。我々の活気が、地域の活性化につながるのです。

率先して行動する事を宣言している以上まずは、考え、行動し尾道青年会議所が地域の活性剤になろう。

近年色々な場所で災害が起きています。尾道は比較的災害の少ない町ではありますが、少ないだけで、災害は必ず起きます。少ないがゆえに防災意識が薄いのも現実です。

災害から私たち自身、家族、そして地域を護る為には、私たち自身の防災意識を向上させる事が、第一だと考えます。そして市民を巻き込み、防災について幅広く発信をしていきます。

先人達が、築いてこられた尾道をより活気に満ち溢れた町にする為に、まずはリーダーである我々がＥＮＧＩＮＥとなり、活気のある活動をし、友情を深め、刺激しあい、個を高め魅力的な尾道青年会議所にしていきましょう。

事　業　計　画	時　　期	予　　算
災害に強いまちづくり事業の調査・研究・実践	通年	３００，０００
尾道の伝統文化の調査・研究・実践	通年	
例会行事	６月	６０，０００
会員拡大の実践	通年	
合　　計		３６０，０００

ＪＣ運動推進室　拡大研修委員会

委 員 長　小林　暢玄
副委員長　中島裕一朗

テーマ「心に火を灯す」

ＥＮＧＩＮＥをかける時、必ず火を点けるように、私たちも己の意志に従って走り出す時、必ず心に火を点けます。

それは、生きるため、稼ぐため、名誉のため・・・それぞれ理由は違います。

しかし、この場に集っている私たちは同じ志のもと心に火を点けた仲間です。
そして先人達からの火を受け継いだ者です。
その一つ一つの火を束ねれば、力強く暖かい大炎となります。
どんなに強い雨風でも消えない、輝き続ける灯火となります。
その灯火は一人では不可能に思えることにチャレンジする原動力となります。

ふるさと尾道のため、ここで暮らす大切な人のため、存在し活動する団体であること。
その証明となる灯火を常に心にもち、人と接していきましょう。

灯火の熱さは人に伝播します。
私たちの灯火で、まちにひとに火を灯しましょう。
そうすれば灯火に新たな人が集い、輪となり、その熱量はさらに上がります。

灯火が未来を照らす大きな光となるよう、円陣を組み一丸となって進んでいきましょう！

事　業　計　画	時　　期	予　　算
会員拡大の調査・研究・実践	通年	６０，０００
例会行事	５月	６０，０００
新入会員ガイダンスの調査・研究・実践	７月	５０，０００
仮入会員研修の調査・研究・実践	９月	５０，０００
新入会員研修の調査・研究・実践	１１月	５０，０００
合　　計		２７０，０００

ＪＣ運動推進室　総務広報委員会

委 員 長　岡田　貴臣
副委員長　岡本　正也

テーマ「ＣＨＡＮＧＥ」

考えが変われば行動が変わる。
行動が変われば習慣が変わる。
習慣が変われば性格が変わる。
性格が変われば人格が変わる。
人格が変われば人生が変わる。

尾道青年会議所のあるべき姿を探求するうえで、総務広報の担うべき使命は何なのか。

尾道ＪＣは、諸先輩方から脈々と受け継がれた意思を継承しながら、我々の素晴らしい故郷・尾道のまち・ひとの発展に尽力してまいりました。
一方で、尾道ＪＣの存在意義を対外に示し、共感・賛同を得るには、まだまだ情報発信力の強化が必要です。

総務として、尾道ＪＣ全体の円滑な活動サポートはもとより、広報として、一人ひとりが尾道ＪＣの顔となり、情熱的で信念を持った活動を行う青年経済人であることを、より多くの方へお伝えしてまいります。

急激に変化する時代の中、これまでの考えや固定観念を変えて、新しい道を切り開く事が出来る組織。尾道ＪＣだからこそ出来る。尾道ＪＣじゃないと出来ない経験を共に分かち合いましょう。
「変えるための挑戦、変わるための挑戦」に、ひたむきに取り組んでまいりましょう。

事　業　計　画	時　　期	予　　算
例会・総会の設営及び運営	通年	７，０００
全般的な庶務の遂行	通年	９２，０００
新理事研修	８月	５０，０００
例会行事	９月	６０，０００
卒業例会	１２月	６０，０００
活動記録の整理・保存及び広報活動の実践	通年	８６，０００
会員拡大の実践	通年	
合　　計		３５５，０００

一般社団法人　尾道青年会議所　事業計画（案）予算（案）

審議　事項

事務局
専務理事：今岡 正英

（1）議案名

２０１９年度　一般社団法人　尾道青年会議所　一般収支予算（案）に関する件

（2）事業名

２０１９年度　一般社団法人　尾道青年会議所　一般収支予算（案）

（3）事業実施に至る背景

前年の決算が終わっていない現在での段階で、次年度での予算を組むことにより尾道青年会議所の資産を明確にしてきた。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）

ｂ．（対内）２０１９年度の予算を決定し、目的達成の為の事業を円滑に行う。

（5）事業概要

ａ．実施日時　２０１９年　１月　１日（火）～１２月３１日（火）

ｂ．場　　所

ｃ．予算総額　￥（詳細は別紙予算書）

ｄ．参加人員　内部　　名　　外部　　名　　計　　名
（内部内訳：）

ｅ．動員計画

ｆ．外部協力者

ｇ．実施組織・推進リーダー　専務理事　今岡　正英

ｈ．実施手順・プログラム

２０１８年１０月１５日	２０１９年度　第３回正副理事長予定者会議	協議
２０１８年１０月１９日	２０１９年度　第３回理事予定者会議	協議
２０１８年１１月　８日	２０１９年度　第４回正副理事長予定者会議	審議
２０１８年１１月１５日	２０１９年度　第４回理事予定者会議	審議
２０１８年１２月　６日	２０１８年度　第１２回理事会	追認

（6）事業内容（目的達成のための手法説明）

繰り越し、会費・事業費・固定費等を明確にする。

繰り越しが確定した時に、修正予算として再度上程する。

（7）過去の検証・本年の工夫と期待される効果

一般社団法人制度の会計基準に沿って行う。

（8）審議のポイント

一般収支予算について

（9）会議での意見とその対応

意見）支出が上回っていて赤字で大丈夫でしょうか。

対応）本年度の繰越と新入会員の会費が追加になり問題ありません。

意見）消費税が上がり、項目の中ですでに上がる項目はわかりますか。

対応）不確定要素が多く現段階では現状のまま明記しております。確定次第、修正予算等で調整していきます。

(10) 他委員会への依頼事項等

(11) 添付資料

２０１９年度　一般社団法人尾道青年会議所　一般収支予算（案）

２０１９年度　一般社団法人尾道青年会議所　一般収支予算（案）管理費明細

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

一般社団法人尾道青年会議所　一般収支予算書内訳表（案）
2019年1月1日から2019年12月31日まで

（単位：円）

	実施事業等会計			その他の事業会計					法人会計	合計
	1	2		1	2	3	4			
	青少年育成に関する事業	地域活性化に関する事業	小計	例会	会員研修に関する事業	会員の親睦に関する事業	その他の庶務に関する事業	小計		
Ⅰ　事業活動収支の部										
1.事業活動収入										
（1）会費収入									11,291,000	11,291,000
正会員会費収入									9,198,000	9,198,000
年会費収入									9,198,000	9,198,000
新入会員入会金									0	0
特別会員会費収入									558,000	558,000
OB会員会費収入									1,535,000	1,535,000
（2）事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0		0
登録料収入			0					0		0
懇親会費収入										
広告料収入			0					0		0
雑収入										
負担金収入			0					0		0
業務委託料										
（3）補助金等収入	0	0	0	0	0	0	0	0		0
地方公共団体助成金			0					0		0
民間助成金										
（4）寄付金収益										
寄付金収益										
（5）雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	121,000	121,000
雑収入			0					0	120,000	120,000
受取利息収入			0					0	1,000	1,000
（6）他会計からの繰入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0		0
特別会計からの繰入金収入			0					0		0
事業活動収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	11,412,000	11,412,000
2. 事業活動支出										
(1)事業費支出	400,000	600,000	1,000,000	2,711,722	1,200,000	560,000	185,000	4,656,722		5,656,722
会場設営費支出	0	0	0	2,071,722	0	0	0	2,071,722		2,071,722
会場費支出	0	0	0	690,897	0		0	690,897		690,897
食事代支出	0	0	0	1,380,825	0		0	1,380,825		1,380,825
企画演出費支出			0					0		0
本部団関係費支出			0					0		0
講師関係費支出			0					0		0
広報費支出			0					0		0
資料作成費支出			0					0		0
報告書作成費支出			0					0		0
懇親会費支出			0					0		0
渉外費支出			0					0		0
旅費交通費支出			0					0		0
参加記念品代支出			0					0		0
保険料支出			0					0		0
通信費支出			0					0		0
販売物品仕入支出			0					0		0
雑費支出			0					0		0
給与手当支出										
リース料支出										
光熱水道費支出										
賃借料支出										
事業予備費支出			0					0		0
（2）管理費支出									6,482,656	6,482,656
会議費支出									559,400	559,400
給与手当支出									1,684,800	1,684,800
福利厚生費支出									269,568	269,568
旅費交通費支出									100,000	100,000
通信・発送費支出									669,200	669,200
消耗品費支出									477,472	477,472
会員支給品費									0	0
リース料支出									298,080	298,080
印刷製本費支出									752,112	752,112
光熱水料費支出									204,216	204,216
賃借料支出									1,037,280	1,037,280
租税公課支出									22,900	22,900
渉外費支出									200,000	200,000
雑支出									207,628	207,628
(3)負担金支出									1,223,795	1,223,795
JCI負担金支出									123,370	123,370
日本JC負担金支出									425,000	425,000
地区協議会負担金支出									36,500	36,500
ブロック協議会負担金支出									249,000	249,000
国際協力資金支出									133,225	133,225
日本JC出向者負担金支出									0	0
We Believe購読料支出									219,000	219,000
その他LOM負担金支出									37,700	37,700
事業活動支出計	400,000	600,000	1,000,000	2,711,722	1,200,000	560,000	185,000	4,656,722	7,706,451	13,363,173
事業活動収支差額	−400,000	−600,000	−1,000,000	−2,711,722	−1,200,000	−560,000	−185,000	−4,656,722	3,705,549	−1,951,173
Ⅱ投資活動収支の部										
1. 投資活動収入										
（1）特定資産取崩収入	0	0	0	0	0	0	0	0		0
周年事業積立資産取崩収入	0	0	0					0		0
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出										0
周年事業積立資産支出										0
投資活動支出計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ財務活動収支の部										
1. 財務活動収入										
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出										
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅳ予備費支出									0	−1,951,173
当期収支差額										0
前期繰越収支差額										
次期繰越収支差額										−1,951,173

一般社団法人尾道青年会議所　正味財産増減計算書　一般収支予算内訳表（案）
2019年1月1日から2019年12月31日まで

（単位：円）

	実施事業等会計			その他の事業会計					法人会計	合計
	1 青少年育成に関する事業	2 地域活性化に関する事業	小計	1 例会	2 会員研修に関する事業	3 会員の親睦に関する事業	4 その他の庶務に関する事業	小計		
Ⅰ　一般正味財産増減の部										
1　経常増減の部										
①経常収益										
(1)受取会費									11,291,000	11,291,000
正会員会費収益									9,198,000	9,198,000
正会員会費									9,198,000	9,198,000
新入会員入会金										0
特別会員会費収益									558,000	558,000
OB会員会費収益									1,535,000	1,535,000
(2)事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0		0
登録料収益			0					0		0
懇親会費収益			0					0		0
広告料収益			0					0		0
雑収入			0					0		0
負担金収益			0					0		0
業務委託料			0					0		0
(3)受取補助金等収益	0	0	0	0	0	0	0	0		0
地方公共団体助成金			0					0		0
民間助成金			0					0		0
(4)寄付金収益	0	0	0	0	0	0	0	0		0
寄付金収益			0					0		0
(5)雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	121,000	121,000
雑収益			0					0	120,000	120,000
受取利息収益			0					0	1,000	1,000
(6)他会計からの繰入金収益	0	0	0	0	0	0	0	0		0
特別会計からの繰入金収益			0					0		0
経常収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	11,412,000	11,412,000
②経常費用										
(1)事業費	400,000	600,000	1,000,000	2,711,722	1,200,000	560,000	185,000	4,656,722		5,656,722
会場設営費支出	0	0	0	2,071,722	0	0	0	2,071,722		2,071,722
会場費支出			0	690,897				690,897		690,897
食事代支出			0	1,380,825				1,380,825		1,380,825
企画演出費支出			0					0		0
本部団関係費支出			0					0		0
講師関係費支出			0					0		0
広報費支出			0					0		0
資料作成費支出			0					0		0
報告書作成費支出			0					0		0
懇親会費支出			0					0		0
渉外費支出			0					0		0
旅費交通費支出			0					0		0
参加記念品代支出			0					0		0
保険料支出			0					0		0
通信費支出			0					0		0
販売物品仕入支出			0					0		0
雑費支出			0					0		0
給与手当支出			0					0		0
リース料支出			0					0		0
光熱水道費支出			0					0		0
賃借料支出			0					0		0
事業予備費支出			0					0		0
(2)管理費									6,482,656	6,482,656
会議費									559,400	559,400
給与手当									1,684,800	1,684,800
福利厚生費									269,568	269,568
旅費交通費									100,000	100,000
通信・発送費									669,200	669,200
消耗品費									477,472	477,472
会員支給品費									0	0
リース料									298,080	298,080
印刷製本費									752,112	752,112
光熱水料費									204,216	204,216
賃借料									1,037,280	1,037,280
租税公課									22,900	22,900
渉外費									200,000	200,000
雑費									207,628	207,628
(3)負担金									1,223,795	1,223,795
JCI負担金									123,370	123,370
日本JC負担金									425,000	425,000
地区協議会負担金									36,500	36,500
ブロック協議会負担金									249,000	249,000
国際協力資金支出									133,225	133,225
日本JC出向者負担金									0	0
We Believe購読料									219,000	219,000
その他LOM負担金									37,700	37,700
(4)管理運営予備費									−1,951,173	−1,951,173
経常費用計	400,000	600,000	1,000,000	2,711,722	1,200,000	560,000	185,000	4,656,722	5,755,278	11,412,000
当期経常増減額	−400,000	−600,000	−1,000,000	−2,711,722	−1,200,000	−560,000	−185,000	−4,656,722	5,656,722	0
2　経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額										−1,951,173
一般正味財産期首残高										0
一般正味財産期末残高										−1,951,173

		実施事業等会計		その他の事業会計				計
		1	2	1	2	3	4	
		青少年育成に関する事業	地域活性化に関する事業	例会	会員研修に関する事業	会員の親睦に関する事業	その他の庶務に関する事業	
活気溢れる組織作り推進委員会	活気溢れる組織作り事業の調査・研究・実践				400,000			
	例会行事			60,000				
	会員交流会			100,000				
	クリスマス会					200,000		
	会員拡大の実践							760,000
地域の魅力創造委員会	尾道の財産を活かしたまちづくり事業の調査・研究・実践		300,000					
	例会行事			60,000				
	夏期講習				300,000			
	会員拡大の実践							660,000
次代を担う宝育成委員会	次代を担う宝育成事業の調査・研究・実践	400,000						
	家族会					100,000		
	例会行事			60,000				
	例会行事			60,000				
	会員拡大の実践							620,000
あるべき姿探求委員会	あるべき姿探求事業の調査・研究・実践				300,000			
	新年宴会					200,000		
	例会行事			60,000				
	しまなみ３JCへの参画							
	会員拡大の実践							560,000
地域活性化促進委員会	災害に強いまちづくり事業の調査・研究・実践		300,000					
	尾道の伝統文化の調査・研究・実践							
	例会行事			60,000				
	会員拡大の実践							360,000
拡大研修委員会	会員拡大の調査・研究・実践					60,000		
	例会行事			60,000				
	新入会員ガイダンス				50,000			
	仮入会員研修				50,000			
	新入会員研修				50,000			270,000
総務広報委員会	例会・総会の設営及び運営						7,000	
	全般的な庶務の遂行						92,000	
	新理事研修				50,000			
	例会行事			60,000				
	卒業例会			60,000				
	活動記録の整理・保存及び広報活動の実践						86,000	
	会員拡大の実践							355,000
合計		400,000	600,000	640,000	1,200,000	560,000	185,000	3,585,000

一般社団法人尾道青年会議所 2019年度 一般収支予算(案) 管理費明細

項　　目	細　目	金　　額	備　　考	計	前年度 修正予算	対比
会議費	理事会	180,000	15,000×12	559,400	483,000	115.8%
	次年度理事会	140,000	28,000×5			
	合同委員会	180,000	18,000×10			
	次年度室合同委員会	59,400				
給与手当	月額給料	1,684,800	給与960×140×12ヶ月　　交通費6,000×12ヶ月	1,954,368	1,895,904	103.1%
	賞与	0				
		1,684,800				
福利厚生費	社会保険	269,568	（月給+賞与）×16%			
旅費交通費	交通費	100,000	LOMバス etc	100,000	150,000	66.7%
通信・発送費	葉書・年賀状・切手代等	424,800	切手代10,000（年間）、年賀状24,800(400枚) ＪＣライフ等発送費 390,000	669,200	665,200	100.6%
	電話料・FAX	236,400	ＮＴＴ17,000×12ヶ月、ﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞ(ｱｰﾊﾞﾝ)料32,400（年間）			
	その他	8,000	書留料、宅急便費 等			
消耗品費	用紙代	74,592	1,554×4×12ヶ月	477,472	497,472	96.0%
	封筒代	38,880	長36,000部			
	トナー代	94,000	ｲﾝｸｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾀｲﾝｸ4,500×12回、トナー40,000			
	コピー機カウント料	240,000	20,000×12ヶ月（平均）			
	その他	30,000	点検修理調整費			
会員支給品費		－	新入会員ﾊﾞｯﾁ・ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ等	－		－
リース料	リース料	298,080	複合機24,840×12回	298,080	298,080	100.0%
印刷製本費	印刷製本費	752,112	会員手帳279,180 ＪＣライフ457,812 拡大パンフレット15,120	752,112	763,560	98.5%
水道光熱費	電気代	144,000	12,000×12ヶ月　　（平均）	204,216	204,216	100.0%
	ガス代	8,604	717×12ヶ月　　（固定）			
	水道代	51,612	4,301×12ヶ月　　（固定）			
賃借料	事務所家賃	857,280	71,440×12ヶ月　　（固定）	1,037,280	1,037,280	100.0%
	駐車場	180,000	15,000×12ヶ月(1台分)　　（固定）			
租税公課	法人県民税	21,000	法人市民税申請により納税免除	22,900	22,900	100.0%
	印紙代	1,900				
渉外費	渉外費	200,000		200,000	300,000	66.7%
雑　費	清掃、消検費	50,000	下水道費、消防設備点検費、事務局内清掃費	207,628	237,628	87.4%
	警備費	34,404	2,867×12ヶ月　　（固定）			
	清掃費（共用部分）	103,224	8,602×12ヶ月　　（固定）			
	その他	20,000				
			合　　計	6,482,656	6,555,240	98.9%

一般社団法人　尾道青年会議所　事業計画（案）

審議　事項

事 務 局
専務理事：今岡　正英

（1）議案名
２０１９年度 一般社団法人尾道青年会議所 特別会員への入会（案）に関する件

（2）事業名
２０１９年度 一般社団法人尾道青年会議所 特別会員への入会

（3）事業実施に至る背景
例年４０歳で満期退会をされても、特別会員としてご指導・ご鞭撻を頂いております。

（4）事業目的（趣旨）
ａ．（対外）
ｂ．（対内）２０１８年度一般社団法人尾道青年会議所を満期退会される、　麻生裕雄君　井上智仁君　河原研介君　工藤孝之君　杉野原猛君　髙垣利將君　武田大俊君　田中良幸君　巻幡恭史君　安本皇君　山本慎也君の以上１１名の方々に定款第２章７条（2）及び運営規定第２章１１条（1）により特別会員に入会して頂き、今後も一般社団法人尾道青年会議所へのご支援を頂く事を目的とします。

（5）事業概要
ａ．実施日時　２０１９年　1月　1日（火）
ｂ．場　　所
ｃ．予算総額
ｄ．参加人員　内部　　名　　外部　　名　　計　　名
（内部内訳：）
ｅ．動員計画
ｆ．外部協力者
ｇ．実施組織・推進リーダー 専務理事 今岡　正英
ｈ．実施手順・プログラム

２０１８年１１月　８日	２０１９年度　第４回正副理事長予定者会議	審議
２０１８年１１月１５日	２０１９年度　第４回理事予定者会議	審議
２０１８年１２月　６日	２０１８年度　第１２回理事会	追認
２０１９年　1月　1日		入会

（6）事業内容（目的達成のための手法説明）
各卒業予定者の意思を確認し、入会頂く。

（7）過去の検証・本年の工夫と期待される効果
特別会員の皆様は、例年積極的に当会議所の事業に参加頂き現役会員にご指導を頂いております。
（8）審議のポイント
特別会員入会承認

（９）会議での意見とその対応

意見）

対応）

(10) 他委員会への依頼事項等

(11) 添付資料

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

一般社団法人　尾道青年会議所　事業計画（案）

審議　事項

委員会名　総務広報委員会
委員長名　岡田　貴臣

（1）議案名

例会・総会の設営及び運営 事業計画（案）に関する件

（2）事業名

１月例会開始時間の変更

（3）事業実施に至る背景

新年宴会の開催にあわせて、例会の開始時間を変更する必要がある。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）

ｂ．（対内）早期に案内文書を発送することにより、通常と異なる例会開始時間をメンバーに周知する。

（5）事業概要

ａ．実施日時　２０１９年1月１６日（水）１８：００～１８：４５

ｂ．場　　所　尾道国際ホテル

ｃ．予算総額

ｄ．参加人員　内部７３名　　外部　　名　　計　　名
（内部内訳：）

ｅ．動員計画

ｆ．外部協力者

ｇ．実施組織・推進リーダー　総務広報委員会　委員長　岡田　貴臣

ｈ．実施手順・プログラム

２０１８年１１月　８日（木）	２０１９年度　第４回正副理事長予定者会議	審議
２０１８年１１月１５日（木）	２０１９年度　第４回理事予定者会議	審議
２０１８年１２月　６日（木）	２０１８年度　第１２回理事会	追認
２０１９年　１月１６日（水）	１月例会	実施

（6）事業内容（目的達成のための手法説明）

新年宴会実施のため、例会開始時間を１８：００に変更し、新年宴会の案内とまとめて早期に案内文書を発送する。

（7）過去の検証・本年の工夫と期待される効果

前々年度より、新年宴会及び例会セレモニーの案内を一文書にまとめて発信したことにより、出席率の向上が期待できると考える。

（8）審議のポイント

例会開始時間について

（９）会議での意見とその対応

意見）

対応）

(10) 他委員会への依頼事項等

例会開始時間が変更となりますので、メンバーへの周知をお願いします。

(11) 添付資料

1月例会次第(案)

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

１月例会次第（案）

日時：２０１９年1月１６日(水)
１８：００～１８：４５
場所：尾道国際ホテル瑞宝の間

１．	開会	１８：００
２．	点鐘	
３．	国歌並びにＪＣソング斉唱	
４．	ＪＣＩクリード唱和	
５．	ＪＣＩミッション並びにＪＣＩビジョン唱和	
６．	ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和	
７．	紹介事項	
８．	配布資料の確認	
９．	バッジ授与式	１８：１０
１０．	理事長年頭挨拶	
１１．	卒業生入場	１８：２０
１２．	各種表彰	
	①　２０１８年度理事長表彰	
	②　２０１８年度満期退会者表彰	
	③　２０１８年度出向者表彰	
	④　２０１８年度皆出席者表彰	
１３．	卒業記念品贈呈式	１８：３５
１４．	卒業生退場	
１５．	報告・依頼事項	
１６．	連絡事項	
１７．	事務局連絡	
１８．	直前理事長総評	
１９．	閉会	１８：４５
２０．	点鐘	

一般社団法人　尾道青年会議所　事業計画（案）

審議　事項

委員会名：あるべき姿探求委員会
委員長名：原田　知晴

（1）議案名　新年宴会　事業計画（案）に関する件

（2）事業名　新年宴会　テーマ「ターニングポイント～あるべき繋がりを求めて～」

（3）事業実施に至る背景

ＯＢ会員・特別会員への日時・場所の周知とスケジュール調整のため早期に案内文書の発送を必要とする。

（4）事業目的（趣旨）

ａ．（対外）日時・場所を早期に決定し、案内文書を発送することによりＯＢ会員・特別会員が出席し易くすることを目的とする。

ｂ．（対内）

（5）事業概要

ａ．実施日時　２０１９年　1月１６日（水）　１９：００～２１：００

ｂ．場　　所　尾道国際ホテル

ｃ．予算総額

ｄ．参加人員　内部　　名　　外部　８１名　　計　８１名
（外部内訳：特別会員３１名　ＯＢ会員５０名）

ｅ．動員計画

ｆ．外部協力者

ｇ．実施組織・推進リーダー　あるべき姿探求委員会　委員長　原田　知晴

ｈ．実施手順・プログラム

２０１８年１１月　８日（木）第４回正副理事長予定者会議　審議
２０１８年１１月１５日（木）第４回理事予定者会議　審議
２０１８年１２月　６日（木）２０１８年度第１２回（新旧）理事会　追認
２０１８年１２月　７日（金）案内文書送付

（6）事業内容（目的達成のための手法説明）

年内に案内を発送する。

（7）過去の検証・本年の工夫と期待される効果

日時・場所の周知を早めにお知らせすることで、多くのＯＢ会員・特別会員の皆様に出席して頂けると考える。

（8）審議のポイント

日時・場所について

（９）会議での意見とその対応

意見）

対応）

（10）他委員会への依頼事項等

（11）添付資料

新年宴会案内文（案）

第１２回理事会　２０１８年１２月　６日

尾 青 会 発　　号
２０１８年１２月　７日

特 別 会 員 各 位

一般社団法人　尾道青年会議所
２０１９年度　理 事 長予定者　山　北　真　也
副理事長予定者　中　谷　純　也
委 員 長予定者　原　田　知　晴

２０１９年　新年宴会のご案内

拝啓　師走の候　皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、２０１９年度一般社団法人尾道青年会議所は山北理事長のテーマ「ＥＮＧＩＮＥ ~我々の価値を高めよう~」のもと新たな門出を迎えます。
この度の新年宴会は「ターニングポイント～あるべき繋がりを求めて～」をテーマに掲げ、新たに始まる２０１９年度体制をご披露致します。
つきましては、ご多忙とは存じますが万障お繰り合わせの上、何卒出席賜りますようお願い申し上げます。

敬　具

記

日　　時　　２０１９年　1月１６日（水）１８：３０受付
１９：００～２１：００
場　　所　　尾道国際ホテル　２Ｆ
例　　会　　テーマ「ターニングポイント～あるべき繋がりを求めて～」
登　録　料　　￥６，０００－（予定）
返信締切　　２０１８年１２月２０日（木）　必着
返　信　先　　一般社団法人　尾道青年会議所
ＦＡＸ　０８４８－２０－１１１２
返信方法　　FAX で事務局まで返信ください。

以上

……き……り……と……り……せ……ん……

２０１９年新年宴会（どちらかに○をしてください）

ご出席　・　ご欠席

お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

尾 青 会 発　　号
２０１８年１２月　７日

Ｏ　Ｂ　会　員　各　位

一般社団法人　尾道青年会議所
２０１９年度　理 事 長予定者　山　北　真　也
副理事長予定者　中　谷　純　也
委 員 長予定者　原　田　知　晴

２０１９年　新年宴会のご案内

拝啓　師走の候　皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、２０１９年度一般社団法人尾道青年会議所は山北理事長のテーマ「ＥＮＧＩＮＥ ~我々の価値を高めよう~」のもと新たな門出を迎えます。
この度の新年宴会は「ターニングポイント～あるべき繋がりを求めて～」をテーマに掲げ、新たに始まる２０１９年度体制をご披露致します。
つきましては、ご多忙とは存じますが万障お繰り合わせの上、何卒出席賜りますようお願い申し上げます。

敬　具

記

日　　時　　２０１９年　1月１６日（水）１８：３０受付
１９：００～２１：００
場　　所　　尾道国際ホテル　２Ｆ
例　　会　　テーマ「ターニングポイント～あるべき繋がりを求めて～」
登　録　料　　￥８，０００－（予定）
返信締切　　２０１８年１２月２０日（木）　必着
返　信　先　　一般社団法人　尾道青年会議所
ＦＡＸ　０８４８－２０－１１１２
返信方法　　FAX で事務局まで返信ください。

以上

……き……り……と……り……せ……ん……

２０１９年新年宴会（どちらかに○をしてください）

ご出席　・　ご欠席

お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿